

(4)

4

F-0360

0000

寫送先

會文人文情條通歐亞細亞
報約商米

次大臣
官

電信課長

(分類) 10.0.4

昭和6 二六一 暗

旅順
本省

九日後發
一月九日後着

亞

幣原外務大臣

河相關東廳外事課長

第三號

本官發奉天宛電報

第一號

貴電第一號ニ關シ

遞信局長ニ就確メタル處八日大連英國領事館邦人雇員來訪ノ上御來
示ノ如キ計畫ノ爲英國側「フアー、イースタン、エビエイション」
會社支配人目下奉天ニ滯在中ナルカ同人ノ依頼ニ基ク趣ニテ大連ニ
不時着陸差支ナキヤトノ申出アリタル處局長不在ノ爲局員ヨリ國際

外務省

航空條約ノ規定ニ依ル援助ナラハ與ヘ得ヘキカト存スルモ此ノ種ノ
申出ハ總テ外務省ヲ通シテセラレタシト答ヘ置ケル趣ナリ
在支公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ
大臣、北平、支、南京ヘ轉電セリ

外務省

F-0360

0089

寫送先

會文人事文化情報通商歐亞細亞
計書事化報約商米

次大臣
官

電信課長

(分類 010.0.0.2)

昭和6

二七〇四

暗

關東廳
本省

九日後發
二月十日後着

亞

幣原外務大臣

塚本長官

第一三號

九日午後一時四十分國籍表示ナキ一航空機周水子飛行場方面ヨリ大連上空ニ現ハレ大廣場附近旋回ノ後再ヒ周水子上空ヲ金州ニ飛ヒ去リシカ引返シ午後一時五十分同飛行場ニ着陸セルヲ以テ直ニ大連憲兵隊長ニ於テ當廳警察官、航空官、要塞司令官副官立會ノ上現場ヲ檢證セルカ右ハ在香港英商「フアー、イースタン、エアコーボレ」イシヨン」航空機（操縦者英國人「ハーベ」外機關士一名）ニシテ乗員ノ申立ニ依レハ同日午前十一時四十五分奉天發大連ヘ向ケ飛

外務省

行ノ途中降雪ノ爲針路ヲ誤リ當地ヘ飛來セシ趣寫眞撮影等ノ事實ナキモ容疑ノ點アリ引續キ取調中
拓務大臣ヘ轉報ヲ請フ

外務省

F-0360

0090

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

關憲警第二五號

英國飛行機要塞地帶内ニ不時着陸ノ件報告「通牒」

昭和六年二月十日 關東憲兵隊長 二宮 健 市

關東廳警務局長 中 谷 政 一 殿

在香港英人經營極東航空株式會社所屬飛行機一機（英人二名搭乗）ハ二月九日奉天ヨリ天津ニ飛行ノ途中大連上空（關東州防禦營造物地帶）ヲ飛行シ午後一時五十分頃周水子陸軍飛行場ニ着陸セリ

大連憲兵分隊長ハ下士二名ヲ隨ヘ現場ニ急行旅順要塞司令部副官、關東廳航空官、大連駐在英國領事等立會ノ下ニ一應現場ニ於テ取調ノ上關係者ヲ憲兵分隊ニ召致十日中ニ取調ヲ了シタルヲ以テ關東州防禦營造物地帶

令並航空法違反トシテ關東廳地方法院ニ送致ノ豫定ナリ狀況左記報告「通牒」ス

記

一 着陸ノ日時場所

二月九日午後一時五十分頃

周水子陸軍飛行場（關東州防禦營造物第二地帶）

一 搭乗者

在香港極東航空株式會社（英人經營）所屬

本籍 英國

住所 香港

操縦士アーサーウァットハーヴェット

當二五年

本籍 英國
住所 香港

機關士ウィリアムホールレスト、ダットマン 當三〇年

飛行機ノ名稱性能

(1) 名稱 アブロー式

(2) 性能 機關 二三〇馬力

速度 一二〇哩乃至一二二哩 (一時間)

耐航時間 五時半

搭乗者ノ略歴及携行品

(1) 略歴

操縦士アイザック・ハーヴェー

一九二五年七月二十三日空軍二等中尉トシテ英國空軍ニ入隊一ケ年
操縦法練習三ケ年夜間爆撃法練習其ノ後四ケ月教官見習八ケ月教官
ヲ爲シ一等中尉ニ進級辭職昨年六月一日現在ノ航空會社ニ就職

機關士ウィリアムホールレスト、ダットマン

一九二一年十月二十二日香港駐在英國空軍ニ入隊シ一九二九年十二
月軍曹ニテ除隊後直ニ現在ノ會社ニ入社今日ニ及ブ

(2) 携行品

技術證明書、飛行證明書 (執レモ英國官憲ノ發行) 羅針盤及東部支
那地圖一枚ヲ携行セルノミニシテ其ノ他寫眞機等ヲ携帯セス

英極東航空會社ノ内容

英人經營ニシテ香港ニ本店ヲ有シ東洋方面ニ於テ飛行機及其ノ部分品
ヲ販賣スルヲ以テ營業トス

六 本件飛行ノ目的及飛行豫定経路

極東航空會社ハ飛行機ヲ支那ニ賣込ノ目的ヲ以テ南京英國領事館ヲ
經テ南京政府ニ支那領土内航空許可ヲ出願シ本年一月十三日許可ヲ
受ケ同時ニ奉天「オリエンタルホテル」滞在中ノ同社理事「ファウ
ラー」ヨリ張學良ニモ同様許可ヲ受ケタルヲ以テ昨年十月末奉天ニ
輸送シアリタル前記飛行機ヲ奉天ヨリ南京迄廣告宣傳飛行ヲ爲シ南
京政府ニ賣込ノ交渉ヲ爲スヘク若シ南京政府ニ賣込不調ノ場合ハ更
ニ南行スヘク計畫ヲ樹テ二月九日午前十一時五十分奉天兵工廠軍用
飛行場ヲ出發北寧線ニ沿ヒ一直線ニ天津ニ到着十日ハ天津ヨリ濟南
ヲ經テ南京ニ飛行ノ豫定ナリ

七 取調状況

(1) 旅大要塞地帯知得ノ有無

極東航空株式會社ハ奉天・天津・濟南・南京ニ至ル航空路開拓ノ計畫
アリ且ツ今回ノ宣傳飛行ノ爲奉天滞在中ノ同社理事「ファウラー」ヨ
リ大連駐在英國領事ニ對シ關東州通過支障ノ有無ヲ照會シ來リ同領事
ハ旅順大連地方ハ要塞地帯ニシテ陸軍大臣ノ許可ヲ得サレハ飛行スル
能ハス尙周水子ニハ飛行場アルモ同シク要塞地帯内ナリト回答アリタ
ルヲ以テ詳細承知シアリ即チ旅大ノ要塞地帯タルコト及要塞上空ヲ無
斷飛行スルトキハ處罰ヲ受クルコトハ承知シアリ且ツ關東州ヲ飛行ス
ル場合ハ要塞地帯法以外ニ國際航空條約及日本ノ航空法ニ準據スヘキ
モ熟知シアリ

(2) 取調状況

操縦士「ハーヴェー」並機關士「ダットマン」ノ陳述スル處ニ依レハ
二月九日奉天―天津間ノ飛行ヲ決行スヘク午前十一時五十分奉天ヲ出
發シ北寧線ニ沿ヒ一直線ニ溝帮子ニ出テ山海關ヲ經テ天津ニ向ハント
セリ

當時ノ天候ハ多少ノ霧アリタルモ概シテ良好ニシテ約千五百呎ノ高度
ヲ保テ飛行ヲ繼續中出發後約四十分ヲ經過セシト思フ頃即チ打虎山
ノ南方附近ヨリ漸次天候險惡トナリ雲低ク且突雪降りトナレルヲ以テ
危險ヲ慮リ高度ヲ約五百呎ニ低下シ低空飛行ヲナシツツ鐵道線路ヲ見
出シ之ヲ北寧線ト信シ線路ニ沿ヒテ南下シ居タルカ時既ニ道路ヲ誤リ
居タルモノノ如ク北寧線ノ支線タル河北線ニ沿ヒ大石橋ヲ經テ大連港
口ニ飛翔シ途中右側ニ詳細判明セサルモ海カ河カ湖ノ如キモノヲ山岳

ノ間ヨリ散見シツツ飛翔シタルカ午後一時四十分頃鐵道ノ終點ニ達シ
タル時眼下ニ市街港灣埠頭船舶ヲ發見シタルヲ以テ操縦者ハ北寧線ヲ
南下シ秦皇島ニ到着シタルモノニシテ埠頭附近ノ鐵道ヲ秦皇島ノ船渠
引込線ト誤認シタルカ附近ノ地形市街ノ狀況秦皇島ト相違セルニ心付
キ或ハ方向ヲ誤リタルニ非サルヤト懸念シ埠頭上空附近ヨリ原方向ニ
引返シ市街ノ上空ヲ旋回飛行シツツ北寧線ノ本線ニ進出スヘク飛行ヲ
續ケ旅順線ニ入り鐵道線路ノ單線（北寧線ハ復線）ナルニ覺キ忽チ方
向ヲ迷ヒタルモノト確信シ居リタル折柄眼下ニ吹雪流シ並ニ飛行場ヲ
シキ草原ヲ發見シタルヲ以テ爾後ノ行動ヲ律スヘク不時着陸スヘク決
意シ午後一時五十分頃着陸シ初メテ滿鐵線ニ沿ヒテ大連附近ニ到着セ
ルコトヲ發見セリ

前記ノ如ク操縦士ハ極力犯意ヲ否認シ全ク天候不良ナリシト地圖ノ不

完全ナリシ爲進路ヲ誤リタルモノト陳述シアルモ當日天候ハ奉天附近
一帯及大石橋以南ハ概シテ良好殊ニ大石橋以南ニ於テハ北寧線トハ反
對方向タル右方ニ海ヲ發見スヘク瓦房店迄飛行セハ渤海ト黃海ヲ左右
ニ瞰望シ得ル狀況ナルニ依リ直ニ進路ヲ誤リタルコトヲ知り得ヘキ實
ナリ此點ニ關シ本名ハ北寧線ニ沿フテ南下シツツアリト信シ居ルタメ
右方ニ海アル筈ナシ多分自己携行ノ地圖不完全ナル爲或ハ記入ナキ河
ナラント思料シ居タリ又雲低クシテ展望ヲ妨ケラレ左右ニ海アルヲ全
ク氣付カス大連埠頭ニ到リ船ノ碇泊セルヲ見テ初メテ進路ヲ誤リタル
コトヲ發見シ更ニ旅順線ニ出テ慈々之ヲ確信シ又着陸後初メテ關東州
ナルコトヲ知得セリト陳述シ居レリ

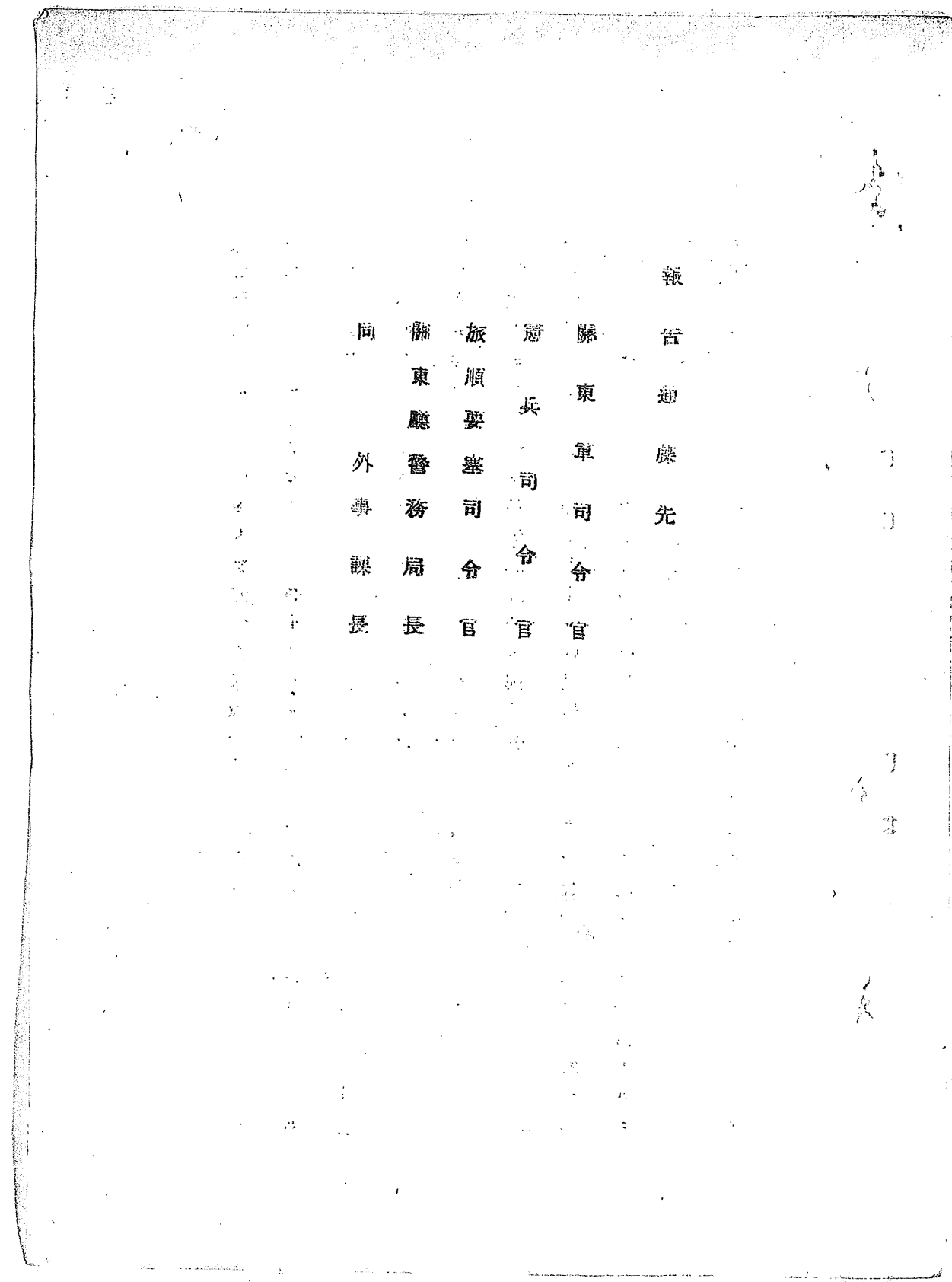
ハ憲兵ノ處置

九日午後一時五十分復葉飛行機（機体全部赤色）大連上空ニ飛來シタ
ルヲ以テ大連憲兵分隊長ハ直ニ關係方面ニ連絡シ飛行機ノ行方ヲ捜査
中午後一時五十五分周水子飛行場ニ着陸セシ通報アリタルヲ以テ下士
二名ヲ隨ヘ現場ニ急行旅順要塞司令部大連派出員砲兵中尉末友四郎及
關東廳航空官（大連在勤）若竹又男、大連駐在領事デエニングノ立會
ヲ求メ機体檢査ヲ行ヒ携行品ヲ假領置シ機体ハ抑留シテ周水子陸軍飛
行場格納庫ニ格納シ關係者一同ヲ憲兵分隊ニ召致シ關東州防禦營造物
地帶法並ニ航空法違反現行犯トシテ取調ヲ開始十日一應ノ捜査ヲ了シ
タルヲ以テ目下送致ノ手續中ナリ
尙身柄ハ英國領事ニ保證セシメ之ニ引渡セリ

意見見解

以上ノ如ク被疑者兩名ハ周水子飛行場ニ着陸スル迄ハ禁制地帯タル大連ノ上空ハ勿論關東州上空ニ飛來シタルコトヲ覺知セザリシト稱シア
ルモ兩名ハ共ニ曾テ英本國ニ於テ空軍ニ軍籍ヲ置キ永年航空術ヲ練習シ殊ニ操縦士ハ奉天滞在間同地上空ヲ兩三回試驗的飛行ヲ爲シタルノミナラス今回ノ發行前ニ於テ旅大上空カ禁制地帯ナルコトヲ熟知シテリシニ拘ハラズ假令雨雪ト低雲ニ多少災セラレタリトハ云ヘ終始海（渤海）ヲ左ニ瞰望シツツ進ムヘキ航路ヲ正反對ニ海ヲ右ニシテ進ミテ尙ホ氣付カス瓦房店上空附近ニ於テハ黃海ト渤海トヲ左右ニ瞰望シ得タル筈（此時此地點附近ハ快晴）ナルニ猶ホ關東州ニ入りタルヲ氣付カス進ンテ大連上空ヲ飛越シテ都市ノ清靜並ニ電車開通ノ狀況ニ依リ支那市街ト其趣ヲ異ニスルコトヲ認メナカラ支那市街以外ノ市街即

チ大連市街ニ立チ入りタルコトヲ覺知セザリシト辯明スルモ斯ハ全ク一ノ遁辭ニシテ固ヨリ承認スヘキ限リニ非ス而モ當日ハ大石橋以兩關東州上空ハ天氣晴朗ナリシニ拘ハラズ斯ル遁辭ヲ弄スルハ畢竟スルニ極メテ粗雑不用意ノ計畫ノ下ニ漫然飛行ヲ決意シ途中雨雪ニ遭遇シテ羅針盤ヲモ多ク用ヒス漫然航空ヲ續ケ遅クモ瓦房店附近ニ於テハ淺薄ナカラモ關東州ニ入りタル認識ヲナシナカラ自棄的の心裡モ加ハリテ飛行ヲ續ケタルモノニシテ本行爲ハ彼レ自ラ重大ナル過失ト認ムル程度ニ止マラス妙クトモ選擇ノ故意ト認メザルヲ得ス因テ關東州防禦營造物地帶令並ニ航空法違反事件トシテ一件書類ヲ大連地方法院檢察官ニ送致手續中ニシテ兩名ノ身柄ハ大連駐在英國領事ニ依託セリ



報
官
通
牒
先

關
東
軍
司
令
官

憲
兵
司
令
官

旅
順
要
塞
司
令
官

關
東
廳
警
務
局
長

同
外
事
課
長

F-0360

0097

飛 行 經 路 要 圖



F-0360

0098

二月九日十二時前後ニ於ケル
南滿洲附近氣象概況

在奉天
本報記者の観測

高氣壓ハ中華民國北部及北朝鮮ニアツテ七七四ミリヲ示シ低氣壓ハ東支那海ニ七六二ミリノモノ東進中テ天氣ハ奉天、開原附近竝北朝鮮ハ晴良ナルモ長春及鞍山以南黃海北部沿岸ハ一帶ニ曇天ナリ尙詳細ニ各地別ニ其當時ノ天候ヲ記載スレハ

奉天

午前十一時 氣壓七七三ミリ二、氣溫ハ零度以下八度ニ示シ風速ハ一米以下ニシテ殆ント靜穩、天氣ハ高キ雲(CS)多少アルモ好晴ナリ

午后一時 氣溫ハ零下六度三ニシテ風ハ東南東一米、天氣ハ高キ雲(CS)ニテ滿天ヲ掩ヒ煙霧アリ

營口

午前十一時 氣壓ハ七七三ミリ四、氣溫ハ零下八度三、風向ハ北、風速ハ

關東廳

午後一時 二米ニシテ天氣ハ高キ雲(CS)ニテ滿天ヲ掩フ
氣溫ハ零下六度一ニシテ風向ハ北西、風速ハ一米八、天氣ハ大體薄曇リナルモ東方ニ少シク層雲(S)ヲ認ム

大連

午前十一時 氣壓ハ七七四ミリ七、氣溫ハ零下四度一ニシテ風向ハ南東、風速ハ六米四、天氣ハ稍低キ雲(SC)ニテ滿天ヲ掩フ

正午 氣壓ハ七七二ミリ九、氣溫ハ零下六度六ニシテ風ハ北北東六米、天氣ハ低キ雲(SK)ニテ滿天ヲ掩フ

午後一時 氣壓ハ七七二ミリ七、氣溫ハ零下五度九、風ハ北四米三、天氣ハ同前

午後二時 氣壓ハ七七二ミリ八、氣溫ハ零下六度二ニシテ風ハ北北西三米四、天氣ハ同前

關東廳

(分類F.1.10.0.4-4)

秘

三月十二日午後
外務大臣ヨリ
拓務大臣
至特送済

昭和六年二月十日着幣原外務大臣宛關東廳塚本長官發電報寫
外國飛行機不時着陸ノ件ニ關シ
拓務大臣ニ左ノ通り轉報アリ度シ

本月九日午後一時四十分國籍ノ表示ナキ一航空機カ關東洲周水子飛
行場方面ヨリ飛來シ大連上空ニ現ハレ大廣場附近旋回ノ後再ヒ周水
子上空ヲ經テ金州方面ニ飛去シタルカ復又引返シ來リ午後一時五十
分周水子飛行場ニ着陸セリ。仍ツテ大連憲兵隊長ハ直チニ要塞司令
官副官、當廳警察官及航空官立會ノ上ニテ現場ヲ檢查シタル處右航
空機ハ在香港英國籍會社「フアー」、イースタン、エア、コーボレー
シヨン」所屬ノ航空機ニシテ操縦者英國人「ハーバー」ノ外機關士
一名座乗シタリ而シテ右乗員ノ申立ニ依レハ同日午前十一時四十五

外務省

5.8

分奉天發大連(上海等ノ誤リナラムカ?)ヘ向ケ飛行ノ途中折柄降
雪ノ爲ニ針路ヲ誤リ周水子ヘ飛來セシ趣ナリ。尤モ同機ハ寫眞撮影
等ノ事實ナキモ其目的並行動ニ關シ容疑ノ點アルヲ以テ我方ニ於テ
引續キ取調中ナリ

(添付紙)ト

外務省

5.8

記録件名
昭和六年二月十日着幣原外務大臣宛關東廳塚本長官發電報寫

(添付紙)

F-0360

0100

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

秘

電信寫

昭和五 一七〇四 時 關東 二月十日 本 省

特原外務大臣

關東

據本接官 東京電報

外國航空機不時着陸ノ件ニ関シ

九日午後一時四十分國籍表示ナキ一航空機 關水子飛行場方面ヨリ大

連上空ニ現ハレ大廣場附近旋回ノ後再々關水子上空ヲ金州ニ飛去

又シ引返ルシ午後一時五十分國籍飛行場ニ着陸セ

憲兵隊長ニ於テ警備警察官及航空官ニ要塞司令官副官立會リ上現場

ヲ檢閲セル故右ハ在香港英領チンチン、イースタン、エア、コーボレ

シヨン」航空機毛機縦者英國人「ハービー」外機關士一名

ハ機員ノ申立ニ依レハ同日午前十一時四十五分泰天機大連ニ向ケ飛

行ノ途中降雪ノ爲針路ヲ誤リ當地ヘ飛來セシ機爲偵察機等ノ事實ナ

キ至密ノ點テハ引續キ取調中ナリ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

ナリ。尤モ同機ハ

外務省

次 大
官 臣

電信課長
間佐信久

(分類 C10.0.0.f)

幣原外務大臣

第一六號

往電第一三號ニ關シ

飛行士「ハーパー」(二五)機關士「ナットマン」(三〇)ニ付取調ヘタルニ「ハ」ハ一九二五年空軍二等中尉トシテ英國空軍ニ入隊シ操縦法夜間爆撃法ヲ練習シタル後約一年間教官ヲ勤メ昨年一等中尉ニ進級辭職シタルモノナリ又「ナ」ハ一九二一年香港駐在英國空軍ニ入隊シ一昨年軍曹ニテ除隊セラレタルモノナリ又同人等使用ノ飛行機ハ「「アプロ」式二三〇馬力」ニシテ萬國航空法ニ規定セル

昭和6 一八四八 暗

關東廳
本省

二月十三日後發
二月十三日後着

亞

塚本長官

要塞地帶令

航空法の違反

◆一二つはまぬがれぬ

る精巧な

炊事夫の惡事

通帳を
まか

[illegible]

大崎市夏町二丁目三番地能く道政官
一月份貸金屋岡田商店では昨年十二
月以前貸金屋岡田商店組合の後継
組織の法人部が置かれた多額で
あることを証し盛に陳報を述べ
た。岡田商店組合が中絶を遂げている
のを意見した藤村が、岡田組合が
同族を組織した小幡村に同族会事務
夫藤村の生れ李正供、が消費組合
代表者分所所長の真偽を依託され
たことを証し陳報を述べた。岡田商店
組合は昨年十月十九日より
本年二月二十日までに同族に自ら
提出し無効で還却した。岡田商店は
同族会に渡した上岡田商店の
更に上押押してみたものがある
ことが証明した。

新聞 昭和二十一年二月十日

國籍及登録記號並ニ耐航證明書航空日誌ヲ有セス訊問ニ對スル兩名ノ態度ハ概シテ卒直ニシテ特ニ事實ヲ曲庇スルカ如キ風ナカリシ趣ナルモ一北寧線ニ從ヒ奉天天津間ヲ飛行スル場合ハ飛行上ノ位置目標トシテ常ニ注意スヘキ渤海灣海面ハ機體ノ左側ニ在リ例ヘハ本件飛行機カ北寧線ト溝幫子營口間支線トヲ見誤マリ營口大石橋ヲ經テ南下シ來リタリトノ兩名ノ陳述ヲ事實ナリトスルモ營口以南ハ斷續シテ渤海灣ヲ右側ニ見タル事實特ニ金州附近以南ハ渤海灣黃海ヲ左右兩側ニ展望シタル事實ニ付何等不思議ヲ起サス依然關東州ニ立入リタルニ非スヤトノ疑ヲ抱カサリシトノ陳述ニ付テハ首肯シ難キ節アリニ大連上空ヲ飛翔シタル際都市ノ結構等ヨリ支那街ニ非サルヘシト感附キナカラ奏皇島ト間違ヘタリトノ陳述ハ疑ヲ容ルル餘地ア

外務省

ル處ニ要塞地帶内上空ノ飛行ニ付テハ或ハ要塞其ノモノヲ望觀セサリシヤモ知レス從テ果シテ多大ノ實害ヲ與ヘタリヤニ付テハ疑アルモ少クトモ要塞地帶ノ上空ヲ飛翔シタルハ實害ヲ與ヘタルモノト推定スルノ已ムナキコト以上ノ事實ニ基キ本件ハ遺憾ナカラ憲兵隊ノ手ヨリ當廳檢察官ノ手ニ移スノ已ムナキ事態トナリタルカ出來得ル丈速ニ結審ニ至ラシムル様取計フ等委細公信
拓務大臣ニ轉報ヲ請フ
代理公使、北平、天津へ轉電セリ

外務省

二月十九日
永井次官
展切初次
官、特送

昭和六年二月十四日着幣原外務大臣宛在關東驛塚本
長官發電報

拓務大臣ニ轉報ヲ乞フ

英國飛行機關東州飛來ノ件ニ關シ

當方ニ於テ飛行士「ハーベ」及機關士「ナットマン」ニ付取調ヘ
ヲ行ヒタル處「ハ」ハ年齡二十五才其履歷ヲ見ルニ一九二五年英國
空軍二等中尉トシテ入隊シ操縦法及夜間爆撃法ヲ練習シタル後約一
年間英國空軍ニ教官ヲ勤メ昨年一等中尉ニ進級後辭職シタルモノナ
リ又「ナ」ハ年齡三十才其履歷ハ一九二一年香港駐在英國空軍ニ入
隊シ一昨年軍曹ニテ除隊セラレタルモノナリ又同人等使用ノ飛行機
ハ「アプロ」式二三〇馬力ニシテ國際航空條約ニ規定セラレタル國

外務省

(添付紙)ト

籍及登録記號並ニ耐航證明書航空日誌等ヲ所有セス。

尤モ當方訊問ニ對スル兩名ノ態度ハ概シテ卒直ニシテ特ニ事實ヲ曲
庇スル様子モナカリシ由ナルカ

(一)北寧線ニ沿ヒ奉天天津間ヲ飛行スル際飛行上ノ位置目標タル渤海
灣海面ハ機體ノ左側ニ在ルヘキヲ兩名ノ陳述ニヨレハ本件飛行機
ハ北寧線ト溝幫子營口間支線トヲ見誤マリ營口大石橋ヲ經テ南下
シ來レル趣ナルカ營口以南ハ斷續シテ渤海灣ヲ右側ニ見特ニ金州
附近以南ハ渤海灣黃海ヲ左右兩側ニ展望シタル由ニシテシカモ右
ニ付兩人共何等不思議ヲ起サス依然トシテ關東州ニ立入りタニ氣
附カサリシト云フモ右陳述ニ付テハ首肯シ難キ節アリ

(二)兩人ハ大連市ノ上空ヲ飛翔シタル際都市ノ結構等ヨリ見テ支那街

外務省

F-0360

0106

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

(添付紙)ト

ニ非サルヘシト感附キナカラ而モ尙同市ヲ秦皇島ト間違ヘタリト
陳述シタルモ右ハ充分疑ヲ容ルル餘地アリ

(三)要塞地帯内上空ノ飛行ニ付テ或ハ彼等カ要塞其ノモノヲ望觀セス
從テ我方ニ多大ノ實害ヲ與ヘサリシヤモ知レサルモ少クトモ彼等
カ要塞地帯内上空ヲ飛翔シタルノ事實ハ我方ニ相當實害ヲ與ヘタ
ルモノト推定スルモ亦已ムヲ得ス

以上ノ理由ニ基キ我方ハ遺憾ナカラ本件ヲ憲兵隊ノ手ヨリ當廳檢察
官ノ手ニ移シタル次第ナルカ當廳ニ於テハ出來得ル限速ニ結審ニ至
ラシムル様取計フ筈ナルニ付右御含置相成度

委細公信

外務省

秘

電信寫

昭和六年二月十四日
本署
開東廳
二月十四日
在東京本署長官署名

昭和外務大臣
招致大臣三野節子

英國飛行機隊來日
非第一三三號

飛行士「ハーバー」
年勤三十三才其後見
調へタル知「ハ」ハ九二五年空軍二等中尉トシテ其間空軍に入隊

シ機法夜間爆撃法ヲ練習シタル後約一年間教官ヲ勤メ昨年一等中尉ニ進級辭職シタルモノナリ又「ナ」ハ九二一年香港駐在英國空

軍ニ入隊シ一昨年軍曹ニテ除隊セラレタルモノナリ又同人等使用ノ飛行機ハ「アプロ」式二三〇馬力ニシテ萬國航空ニ規定セ

國籍及登録記號並ニ耐航證明書航空日誌ヲ有セス。又開ニ對スル兩名ノ機ハ概シテ卒直ニシテ特ニ事實ヲ曲庇スル様ナカリシ

ナルカ。北寧線ニ從ヒ奉天天津間ヲ飛行スル機ハ飛行上ノ位置目

機ハ北寧線ニ在リ。渤海灣海面ハ機體ノ左側ニ在リ。本機

飛行機ハ北寧線ト渤海灣間支線ト見誤マリ營口大石橋ヲ經テ南下シ來リ。兩名ノ機ハ陳述ヲ事實ナリトス。營口以南ハ漸

シテ渤海灣ヲ右側ニ見ル。事特ニ金州附近以南ハ渤海灣黃海ヲ左

右兩側ニ展望シタル事。付何等不思議ヲ起サス依然關東州ニ立入

リタルニ非ス。ト疑ヲ抱カサリ。陳述ニ付テハ首肯シ難キ節

アリ。天連上空ヲ飛翔シタル際都市ノ結構等ヨリ支那街ニ非サルヘ

シト感附キナカラ奏皇島ト間違ヘタリト。陳述ハ疑ヲ容ルル餘地アリ

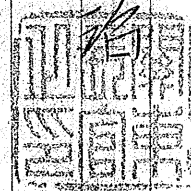
小庭(三) 要塞地帯内上空ノ飛行ニ付(テ) 或ハ要塞其ノモノヲ望観セ(ス)
 リシヤモ知レ本從テ果シテ多大ノ實害ヲ與ヘタリヤニ付テハ(知)レサル
 モ少クトモ(知)レ本從テ果シテ多大ノ實害ヲ與ヘタリヤニ付テハ(知)レサル
 定スルモ(知)レ本從テ果シテ多大ノ實害ヲ與ヘタリヤニ付テハ(知)レサル
 手ヨリ常陸検査官ノ手ニ移メ(知)レ本從テ果シテ多大ノ實害ヲ與ヘタリヤニ付テハ(知)レサル
 式連ニ結締ニ至ラシムル様取計ヲ(知)レ本從テ果シテ多大ノ實害ヲ與ヘタリヤニ付テハ(知)レサル
 拓務大臣ニ轉報ヲ請フ(知)レ本從テ果シテ多大ノ實害ヲ與ヘタリヤニ付テハ(知)レサル
 代理公使、北平、天津へ轉電セリ

半

關外第二八四號

昭和六年二月十六日

關東長官塚本清



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

英國人飛行機要塞地帯内
不時着陸ニ関スル件

本件ニ関シ不取敢電第十六號
ヲ以テ申進致置候處本件ニ関

スル關東憲兵隊ノ訊問調書並當
廳觀測所ニ於テ觀測セル飛行當

日ノ南滿洲附近氣象概況并參
考迄及送付候也

關東廳

本信寫送付光

在支公使公使館 天津總領事

二月十六日

(印)

昭和六年貳月廿日 別紙添附 接受





關憲警第二五號

英國飛行機要塞地帯内ニ不時着陸ノ件報告「通牒」

昭和六年二月十日

關東憲兵隊長 二 宮 健 市

關東廳外事課長 河 相 達 夫 殿

在香港英人經營極東航空株式會社所屬飛行機一機（英人二名搭乗）ハ二月九日奉天ヨリ天津ニ飛行ノ途中大連上空（關東州防禦營造物地帯）ヲ飛行シ午後一時五十分頃周水子陸軍飛行場ニ着陸セリ
大連憲兵分隊長ハ下士二名ヲ隨ヘ現場ニ急行旅順要塞司令部副官、關東廳航空官、大連駐在英國領事等立會ノ下ニ一應現場ニ於テ取調ノ上關係者ヲ憲兵分隊ニ召致十日中ニ取調ヲ了シタルヲ以テ關東州防禦營造物地帯令並航空法違反トシテ關東廳地方法院ニ送致ノ豫定ナリ狀況左記報告

關 東 廳

「通牒」ス

左 記

一、着陸ノ日時場所

二月九日午後一時五十分頃

周水子陸軍飛行場（關東州防禦營造物第二地帯）

二、搭乗者

在香港極東航空株式會社（英人經營）所屬

本籍 英國

住所 香港

操縦士 アイサーウアー、ハーヴェー

當 二十五年

本籍 英國

住所 香港

機關士 ウィリアム ホーレスト、ダットマン

關 東 廳

第三十年

三、飛行機ノ名稱性能

(1) 名稱 アプロー式

(2) 性能 機關 二三〇馬力

速度 一二〇哩乃至一二二哩(一時間)

耐航時間 五時半

四、搭乗者ノ略歴及携行品

(1) 略歴

操縦士 アーサーウアー、ハーヴェー

一九二五年七月二十三日空軍二等中尉トシテ英國空軍ニ入隊一ケ年操縦法練習三ケ年夜間爆撃法練習其後四ケ月教官見習八ケ月教官ヲ爲シ一等中尉ニ進級辭職昨年六月一日現在ノ航空會社ニ就職

機關士 ウィリアム ホーレスト、ダットマン

一九二一年十月二十二日香港駐在英國空軍ニ入隊シ一九二九年十二月

關 東 廳

軍曹ニテ除隊後直ニ現在ノ會社ニ入社今日ニ及フ
(2) 携行品

技倆證明書、飛行證明書(執レモ英國官憲ノ發行)羅針盤及東部支那地圖一枚ヲ携行セルノミニシテ其他寫眞機等ヲ携帯セス

五、極東航空會社ノ内容

英人經營ニシテ香港ニ本店ヲ有シ東洋方面ニ於テ飛行機及其部品ヲ販賣スルヲ以テ營業トス

六、本件飛行ノ目的及飛行豫定経路

極東航空會社ハ飛行機ヲ支那ニ賣込ノ目的ヲ以テ南京英國領事館ヲ經テ南京政府ニ支那領土内航空許可ヲ出願シ本年一月十三日許可ヲ受ケ同時に奉天「オリエンタルホテル」滞在中ノ同社理事「ファウラー」ヨリ張學良ニモ同様許可ヲ受ケタルヲ以テ昨年十月末奉天ニ輸送シアリタル前記飛行機ヲ奉天ヨリ南京迄廣告宣傳飛行ヲ爲シ南京政府ニ賣込ノ交渉ヲ爲スヘク若シ南京政府ニ賣込不調ノ場合ハ更ニ南行スヘク計畫ヲ樹テ二

關 東 廳

F-0360

0112

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

月九日午前十一時五十分奉天兵工廠軍用飛行場ヲ出發北寧線ニ沿ヒ一直線ニ天津ニ到着十日ハ天津ヨリ濟南ヲ經テ南京ニ飛行ノ豫定ナリ

セ取調狀況

(1) 旅大要塞地帯知得ノ有無

極東航空株式會社ハ奉天―天津―濟南―南京ニ至ル航空路開拓ノ計畫アリ且ツ今回ノ宣傳飛行ノ爲奉天滯在中ノ同社理事「フアウラー」ヨリ大連駐在英國領事ニ對シ關東州通過支障ノ有無ヲ照會シ來リ同領事ハ旅順大連地方ハ要塞地帯ニシテ陸軍大臣ノ許可ヲ得サレハ飛行スル能ハス尙周水子ニハ飛行場アルモ同シク要塞地帯内ナリト回答アリタルヲ以テ詳細承知シアリ即チ旅大ノ要塞地帯タルコト及要塞上空ヲ無斷飛行スルトキハ處罰ヲ受クルコトハ承知シアリ且ツ關東州ヲ飛行スル場合ハ要塞地帯法以外ニ國際航空條約及日本ノ航空法ニ準據スヘキモ孰知シアリ

(2) 取調狀況

關東廳

操縦士「ハーヴェー」並機關士「ダットマン」ノ陳述スル處ニ依レハ二月九日奉天―天津間ノ飛行ヲ決行スヘク午前十一時五十分奉天ヲ出發シ北寧線ニ沿ヒ一直線ニ溝帮子ニ出テ山海關ヲ經テ天津ニ向ハントセリ

當時ノ天候ハ多少ノ霧アリタルモ概シテ良好ニシテ約千五百呎ノ高度ヲ保チ飛行ヲ繼續中出發後約四十分ヲ經過セシト思フ頃即チ打虎山ノ南方附近ヨリ漸次天候險惡トナリ雲低ク且霧雪降リトナレルヲ以テ危險ヲ慮リ高度ヲ約五百呎ニ低下シ低空飛行ヲ爲シツツ鐵道線路ヲ見出シ之ヲ北寧線ト信シ線路ニ沿ヒテ南下シ居タルカ時既ニ進路ヲ誤リ居タルモノノ如ク北寧線ノ支線タル河北線ニ沿ヒ大石橋ヲ經テ大連港口ニ飛翔シ途中右側ニ詳細判明セサルモ海力河カ湖ノ如キモノヲ山岳ノ間ヨリ散見シツツ飛翔シタルカ午後一時四十分頃鐵道ノ終點ニ達シタル時眼下ニ市街港灣埠頭船舶ヲ發見シタルヲ以テ操縦者ハ北寧線ヲ南下シ秦皇島ニ到着シタルモノニシテ埠頭附近ノ鐵道ヲ秦皇島ノ船渠

關東廳

引込線ト誤認シタルカ附近ノ地形市街ノ状況秦皇島ト相違セルニ心付
キ或ハ方向ヲ誤リタルニ非サルヤト懸念シ埠頭上空附近ヨリ原方向ニ
引返シ市街ノ上空ヲ旋回飛行シツツ北寧線ノ本線ニ進出スヘク飛行ヲ
續ケ旅順線ニ入り鐵道線路ノ單線（北寧線ハ複線）ナルニ驚キ愈々方
向ヲ迷ヒタルモノト確信シ居リタル折柄眼下ニ吹キ流シ並ニ飛行場ヲ
シキ草原ヲ發見シタルヲ以テ爾後ノ行動ヲ迷スヘク不時着陸スヘク決
意シ午後一時五十分頃着陸シ初メテ滿鐵線ニ沿ヒテ大連附近ニ到着セ
ルコトヲ發見セリ

前記ノ如ク操縦士ハ極力犯意ヲ否認シ全ク天候不良ナリシト地圖ノ不
完全ナリシ爲進路ヲ誤リタルモノト陳述シアルモ當日天候ハ奉天附近
一帯及大石橋以南ハ概シテ良好ニ大石橋以南ニ於テハ北寧線トハ反
對方向タル右方ニ海ヲ發見スヘク瓦房店迄飛行セハ渤海ト黃海ヲ左右
ニ瞰望シ得ル狀況ナルニ依リ直ニ進路ヲ誤リタルコトヲ知り得ヘキ筈
ナリ此點ニ關シ本名ハ北寧線ニ沿フテ南下シツツアリト信シ居ルタメ

關
東
廳

右方ニ海アル筈ナシ多分目已携行ノ地圖不完全ナル爲或ハ記入ナキ河
ナラント思料シ居タリ又雲低クシテ展望ヲ妨ケラレ左右ニ海アルヲ全
ク氣付カス大連埠頭ニ到リ船ノ碇泊セルヲ見テ初メテ進路ヲ誤リタル
コトヲ發見シ更ニ旅順線ニ出テテ愈々之ヲ確信シ又着陸後初メテ關東
州ナルコトヲ知得セリト陳述シ居レリ

八、憲兵ノ處置

九日午後一時五十分後葉飛行機（機体全部赤色）大連上空ニ飛來シタル
ヲ以テ大連憲兵分隊長ハ直ニ關係方面ニ連絡シ飛行機ノ行方ヲ捜査中
午後一時五十五分周水子飛行場ニ着陸セシ通報アリタルヲ以テ下士二名ヲ
隨ヘ現場ニ急行旅順要塞司令部大連派出員他兵中尉末友四郎及關東廳航
空官（大連在勤）若竹又男、大連駐在領事「デエニング」ノ立會ヲ求メ
機体檢査ヲ行ヒ携行品ヲ假領置シ機体ハ抑留シテ周水子陸軍飛行場格納
庫ニ格納シ關係者一同ヲ憲兵分隊ニ召致シ關東州防禦營造物地帶法並ニ
航空法違反現行犯トシテ取調ヲ開始十日一應ノ捜査ヲ了シタルヲ以テ目

關
東
廳

下送致ノ手續中ナリ
尙身柄ハ英國領事ニ保證セシメ之ニ引渡セリ
九意見處置

以上ノ如ク被疑者兩名ハ周水子飛行場ニ着陸スル迄ハ禁制地帯タル大連ノ上空ハ勿論關東州上空ニ飛來シタルコトヲ覺知セサリシト稱シアルモ兩名ハ共ニ曾テ英本國ニ於テ空軍ニ軍籍ヲ置キ永年航空術ヲ練習シ殊ニ操縦上ハ奉天帶在間同地上空ヲ兩三回試験的飛行ヲ爲シタルノミナラス今回ノ發航前ニ於テ旅大上空カ禁制地帯ナルコトヲ熟知シアリシニ拘ハラス假令兩雪ト低雲ニ多少災セラレタリトハ云ヘ終始海（渤海）ヲ左ニ瞰望シツツ進ムヘキ航路ヲ正反對ニ海ヲ右ニシテ進ミテ向ホ氣付カス瓦房店上空附近ニ於テハ黃海ト渤海トヲ左右ニ瞰望シ得タル筈（此時此地點附近ハ快晴）ナルニ猶ホ關東州ニ入りタルヲ氣付カス進ンテ大連上空ヲ飛翔シテ都市ノ結構並ニ電車開通ノ狀況ニ依リ支那市街ト其趣ヲ異ニスルコトヲ認メナカラヌ那市街以外ノ市街即チ大連市街ニ立チ入りタル

關
東
廳

コトヲ覺知セサリシト辯明スルモ斯ハ全ク一ノ遁辭ニシテ固ヨリ承認スヘキ限リニ非ス而モ當日ハ大石橋以南關東州上空ハ天氣晴朗ナリシニ拘ハラス斯ル遁辭ヲ并スルル畢竟スルニ極メテ粗雑不用意ノ計畫ノ下ニ漫然飛行ヲ決意シ途中雨雪ニ遭遇シテ羅針盤ヲモ多ク用ヒス漫然航空ヲ續ケ遅クモ瓦房店附近ニ於テハ淺薄ナカラモ關東州ニ入りタル認識ヲナシナカラ目録的心裡モ加ハリテ飛行ヲ續ケタルモノニシテ本行爲ハ彼レ目ラ重大ナル過失ト認ムル程度ニ止マラス渺クトモ選擇ノ故意ト認メサルヲ得ス因テ關東州防禦營造物地帯令並ニ航空法違反事件トシ一件書類ヲ大連地方法院檢察官ニ送致手續中ニシテ兩名ノ才柄ハ大連駐在英國領事ニ依托セリ

（丁）

關
東
廳

二月九日十二時前後ニ於ケル
南滿洲附近氣象概況

高氣壓ハ甲午民國北部及北朝鮮ニアツテ七七四ミリヲ示シ低氣壓ハ東支那
海ニ七六二ミリノモノ東遼中テ天氣ハ奉天、開原附近及北朝鮮ハ晴長ナル
モ遼春及鞍山以南黃海北部沿岸ハ一帶ニ曇天ナリ同詳細ニ各地別ニ其當時
ノ天候ヲ記載スレハ

奉天

午前十一時 氣壓七七三ミリ二、氣溫ハ零度以下八度二ヲ示シ風速ハ一米

以下ニシテ殆ント靜穩、天氣ハ高キ雲(CS)多少アルモ好晴

ナリ

午後一時 氣溫ハ零下六度三ニシテ風ハ東南東一米、天氣ハ高キ雲(CS)

ニテ滿天ヲ掩ヒ煙霧アリ

營口

午前十一時 氣壓ハ七七三ミリ四、氣溫ハ零下八度三、風向ハ北、風速ハ

關東廳

午後一時

二本ニシテ天氣ハ高キ雲(CS)ニテ滿天ヲ掩フ
氣溫ハ零下六度一ニシテ風向ハ北西、風速ハ一米八、天氣ハ
大體薄曇リナルモ東方ニ少シク層雲(S)ヲ認ム

大連

午前十一時

氣壓ハ七七四ミリ七、氣溫ハ零下四度一ニシテ風向ハ南東、
風速ハ六米四、天氣ハ稍低キ雲(SC)ニテ滿天ヲ掩フ

正午

氣壓ハ七七二ミリ九、氣溫ハ零下六度六ニシテ風ハ北北東六
米、天氣ハ低キ雲(KS)ニテ滿天ヲ掩フ

午後一時

氣壓ハ七七二ミリ七、氣溫ハ零下五度九、風ハ北四米三、天
氣ハ同前

午後二時

氣壓ハ七七二ミリ八、氣溫ハ零下六度二ニシテ風ハ北北西三
米四、天氣ハ同前

關東廳

電送第1892號

昭和6年2月16日午後4時41分發

電信案

外務省

3.2

御参考迄轉電ス
(別紙令文轉電ノコト)

本大臣は関東廳塚本長官宛電報要領

件 宛
第 七 號

花巻電
貴田海雄子代電
發 名込綴
幣原大臣

主 管 亞細亞局長 知 任 主 任 亞細亞局長第一課
(起草昭和六年二月十六日)

電信課長

(原議用紙甲)

電信案

電送第1898號

昭和6年2月16日午後7時23分發

電信案

外務省

3.2

貴電第一三號及第一六號要旨香港へ電
報ス
在支代理公使 叔平、天津(轉電ス)

件 宛
第一三 號

在支東方
塚本長官
發 名込綴
幣原大臣

主 管 亞細亞局長 知 任 主 任 亞細亞局長第一課
(起草昭和六年二月十六日)

電信課長

(原議用紙甲)

電信案

F-0360

0117

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

電信課長

電信課長

主

主

主

主

(起草昭和九年二月六日)

(原議用紙甲)

件

美國租借飛行機大連飛來

名込綴

宛

在支 重光代理公使
在北平 矢野代理公使
在天津 田尻就領事代理

發

敬原大臣

暗

合第一二四號

本大臣跪謝東方光愛報第一三三號

(本文原文(轉電先)合(轉電)一三三)

電信案

外務省

3.2

電送 1898
1898
1898
第6年2月16日 28分發

昭和九年二月六日

外事課 鈴木局

河和外部課長 殿

折込の上京以來種々多用ノ儀下奉致候。折込は、河和外部課長殿
例ノ飛行機ノ一、同シ

十二日附ノ長官宅宛 萬事 敬事ヲ別紙 申上ノ通ニ由
越々 附々 十二日 電送ノ儀 外務課長 申上 奉答ノ如所
尋常 決之 由 通事 務局 同致 度旨 申出 奉答 同
事 務局 之 於 之 奉答 同下 以上 奉答 明日 附込 加 之 奉答
能 必 奉答 之 奉答 之 奉答 同 地 奉答 之 奉答 同 奉答 之 奉答 同

關東廳

同事秘書ノ新連ノ時名ニ差出リ居リ且同係ニアリ午後
四時ヨリ左迄方知事ニテ常見致度旨同系方ニ於テ
其月既訖市同歩迄四時ヨリ一時名今見其際知事
ヨリ申出ノ方知事(一)右件飛行者力無意識同系方ニ
先子ハ河相親長ハ長沢陽長ニ承認相成居ルコトナリ
(二)十日ノ夜各同係官憲力審議セラルル迄方ハ兩飛行者ハ
少友ノ「アボロ」ニ「一」當夜左迄ヨリ送付セラルルコトナリ
會合同「カ」ナリ知事ナリ
(三)最後ハ河相親長ニ面接ノ際中事糾ハ檢察官ニ移セ
且旨語ヲシタル方ハ少官ハ右「アボロ」ニ「一」檢察官ニ傳ヘ
テ度レリ連ヘナリ
(四)少官ハ飛行者力要塞ノ規則嚴達セタルコトハ認ムル
既ニ右飛行者ハ少官力陳謝シ且同係方ハ此際因ハ「一」處

關 東 廳

置尺柵望ナク
右ノ對シ同同事秘書ヨリ陳述ノ後方ハ上司ノ傳フ「一」法院
側事情判明ノ際ハ並ニ通知スルコトナリト應酬シ置ナリ
趣ニ有ル能
次「一」同「カ」ハ同事秘書宛更ニ別紙ニ「一」通「一」事係有
候右ニ付「一」差出「一」方知事ハ更ニ前「一」通「一」各同係官憲
字送付致置候
然レ右件「一」同「カ」ハ二月十八日(十日)夕刊トシテ配達セラル
大連新聞ヨリ方ニ而「一」別紙「一」再「一」記「一」掲載シアリ且
方知事ハ「一」差出「一」時「一」萬事知事ヨリ右件「一」不「一」起訴「一」ナリ
「一」身「一」腰「一」有「一」ル「一」(「一」沙「一」段「一」於「一」テ「一」事「一」ハ「一」兩「一」周「一」中「一」ハ「一」趣「一」當「一」方「一」
於「一」テ「一」何「一」旨「一」同「一」也「一」ナリ且同同事秘書ヨリ同系相成候
時「一」方「一」月「一」十日「一」同「一」方知事新聞刊「一」別紙「一」下「一」号「一」ノ記事有

關 東 廳

有し帳簿簿所新帳

(四)

考更に元銀造文海標稱(外務大臣奏傳)コハウレ

一ツレ上十七日貴代親より在事貴方へ送付相取帳

大貴の進一筆新一編トレリ何故告甲上帳

以上

關
東
廳

秘書局

條約局

第三課

(10)

第

Aide Memoire

一九三一年二月三日
英領事館
書記官 手付

アムステルダム

On February 9th a British "Avro" aeroplane, belonging to the Far Eastern Aviation Company, Mukden, piloted by Mr. A. V. Harvey, a British subject, and carrying an engineer, Mr. W. F. Dudman, landed at the Choushuitzu Aerodrome, near Dairen, having lost its way on a flight from Mukden to Nanking. The aerodrome lies in a fortified zone and the machine and its occupants were at once detained and examined by the Japanese Gendarmerie at Dairen.

The pilot, in reply to questions as to his route, etc. put to him by the authorities, stated that owing to his ignorance of the topography of that part of Manchuria he at first intended to fly by compass direct to Koupangtsze. Soon after leaving, however, visibility became poor and as the map he was using was an old one and did not show the contours of the country he felt that it was dangerous to fly by compass. He accordingly decided, upon sighting a railway line shortly afterwards, to follow the line, being at the time under the impression that it was the Peking-Mukden line which he was following. He did not realise his mistake until he found himself over Dairen,

and/

and being by that time convinced that he had completely lost his way and being both cold and hungry he decided to land at a spot where he thought he had seen an aerodrome on his way. It seems owing to the weather conditions the pilot had kept his eyes on the railway track, and, in view of the intense cold, had not maintained an outlook over the side of the machine, which was an open one, in order to see the surrounding country.

After careful investigation of the facts the military authorities stated that they were satisfied that the visit of the aeroplane to the Leased Territory was entirely accidental. They added, however, that they alone could not deal with the case, which had been referred to the Dairen District Court, and it now appears that the authorities of this Court contemplate proceedings against the pilot for an infraction of the regulations in regard to flying over Japanese territory.

The decision of the military authorities was reached on February 13th: but the District Court has not yet dealt with the case and meanwhile both aeroplane and personnel are still detained at Dairen.

In view, however, of the fact that the military authorities have recognised that the landing in the Leased Territory was accidental, it is hoped that the judicial authorities will take a similarly lenient view of the purely technical offence which has been committed and that such formal proceedings as are necessary may be expedited so as to admit of their release at as early a date as may be possible.

21st February, 1931.

電送第 日 1662 號
 3 1665
 昭和 6 年 2 月 21 日 15 時 15 分發

電信課長	主任	件	宛	暗
亞細亞局長	任主	英國籍船行機大連飛來件	在支 重光代理公使 在北平 大野參事官 在天津 田尻龍防事代理 在香港 吉田龍防事代理 合第 一三六號	本大臣宛 坂本東 長官宛 廣報第五号 (右電報全文轉發ノト)
發 名 込 綴 廣報 原 大臣				

（起草 永正 六年 二月 二 日）
 （原議用紙甲） 國納

電送第 1661 號
 昭和 6 年 2 月 21 日 15 時 48 分發

電信課長	主任	件	宛	暗
亞細亞局長	任主	英國籍船行機大連飛來件	在支 重光代理公使 在北平 大野參事官 在天津 田尻龍防事代理 在香港 吉田龍防事代理 合第 一三六號	本大臣宛 坂本東 長官宛 廣報第五号 (右電報全文轉發ノト)
發 名 込 綴 廣報 原 大臣				

（起草 永正 六年 二月 二 日）
 （原議用紙甲） 國納

F-0360

0122

電送第 1666 號

昭和 6 年 2 月 21 日 18 分發

電信課長

電信案

主 管 亞細亞局長 3

任 主

亞細亞局長

(起草 本 昭和 6 年 2 月 21 日)

件

1 件 英國籍飛行機大連飛來

名 込 綴

宛

在英 松平大使

發

幣原大臣

暗

第 二 七 號

本大臣宛英京、本城本長官宛電報要領

左 電一通、御参考迄轉電不

御本件ニ関シ二十日東京、大連、ハルビン、

電信案

外務省

(原議用紙乙)ナ

二月九日午後一時四十分、國籍ノ表示

ナキ一航空機、大連、遼寧、開水子、飛行場

方面より、大連上空に現ハレ、東廣場附近

旋回、後、開水子上空に墜シ、全機、方面

飛行機、墜リ、又、引連シ、墜、一時、五、十

分、開水子飛行場、着陸セルヲ以テ、直ニ

ニ大連、憲兵隊長、於テ、當ニ、嚴、密、示

電信案

外務省

3.2

F-0360

0123

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

(原議用紙乙)ナ

官、航空士官及要塞司令副官立會
ノ上現場ヲ檢査セル處有ハ在ホリ港
英空団「フアー、イースタン、エプ、ユーポレーシヨ
ン」ノ航空機「アバ」式ニ乗リテ
操縦者英國人「ハーバー」(二五才、一九二五
年空軍二等中尉トシテ英國空軍ニ入
隊昨年一等中尉ニ進級辭職セリ)及

電信案

外務省

3.2

(原議用紙乙)ナ

機関士「ナットマン」(三〇才、一九二二年香港
駐在英國空軍ニ入隊シ一昨年軍曹
ニテ除隊セリ)ナリ而テ同く等ノ申立
ニ依レハ同日午前十一時半天津
ハ向ケ飛行ノ途中降雪ノ爲ニ針路
ヲ誤リ海水子ハ飛奔セル上ニシテ寫ルヒ大
撮影等ノ事實ナリ

電信案

外省

3.2

F-0360

0124

電信案

外務省

3.2

已ハリナキ事ハ懸念ナリトナリ
尤モ當ニ廳ニ於
テハ出來得レシ丈速カニ結案スル至ラシムル様
取斗フ所ナリ、因ニ同航空機ハ國際航
空條約ニ規シタル國籍及シテ録記号並
ニ耐航證明書航空工日法ヲ有セス

(原議用紙乙)ナ

電信案

外務省

3.2

對シ西名ノ懸念有テ概
特ニ事實ヲ曲庇スルカ如キ様子モ見
得
鬼ノ角關東洲ニ於ケル我方要
害地帯内上空ヲ飛翔シタル事實ヤ
我ガ對シ西名ノ懸念有テ概
外ナクハ何ヲ事作ル遠慮ナカクハ鬼
兵隊ニ手ヨリ當ニ鑑査官ノ手ニ移

(原議用紙乙)ナ

F-0360

0125

寫

昭和六年二月二十二日

田邊事務官

河相外事課長殿

拜啓陳者貴官御出發後ニ於ケル英國飛行機ノ件ニ關スル狀況ニ付テハ二月十九日附ヲ以テ不取敢英國領事來信寫及新聞切抜等添付貴官宛報告致サシメ置候處其後

(一)

(前同大連ニ於テ會見ノ際小官ヨリ檢察局側ノ措置判明次第當方ヨリ通報スヘキ旨英國領事代理ヘ申述ヘ置キタルニ拘ラス) 日々二回右檢察局側ヨリ通知ヲ受ケタリヤ否ヤニ付キ電話ニテ照會越アリ當方トシテハ其都度未タ通知ニ接セサル旨回答致居ル次第

關東廳

ニ有之候最モ右ハ先方トシテハ當方ヲシテ此際事件解決促進方ニ付キ檢察官ヲ「プレツス」セシメントスル心組ナルヤニモ察セラル節アルモ目下ノ處本事件ノ成行ハ二十一日長官代理發在京長官閣下宛往電第二六號ノ通り當方ニ於テ速行方督勵中ナルモ事實上本件カ_テ中記ノ如キ「デリケート」ナル立場ニアル以上面向キトシテハ差當リ右電話ハ單ニ「當方カ檢察官ヨリ事件解決ノ通知ヲ受ケタリヤ否ヤ」ノ照會ナリト解釋シ之ニ回答ヲ與フル外他ニ途ナキ次第ニ有之候

(二)

本月二十一日附(二十日ノ夕刊トシテ配布セルモノ)及二十一日朝刊(以上滿日新聞記事ニシテ大連新聞ニハ該當ノ記事ナシ)ニ別紙切抜ノ記事掲載有之候條思付ノ儘及送付候

(三)

關東廳

F-0360

0126

同月二十英國領事代理ヨリ二十一日午前中當廳ニ小官ヲ訪問致度旨申出アリ依テ同二十一日午前十時小官高田囑託同席ノ上會見應酬シ其際領事代理ノ小官ニ語りタル大要(一)河相、田邊兩課長ニハ數回會見或ハ文書ヲ送り且ツ日毎ニ電話ヲ以テ事件解決ヲ尋ネ居ルニ拘ラス未タ小官ノ希望スル回答ニ接スルコト能ハサルハ了解ニ苦シム所ナル(二)本件ニ付テハ故意ニ其ノ解決ヲ阻止スルモノアルニ非ルカヲ疑フ如何(三)自分ハ「ブライベート」ニ開述セム「ハーヴェー」ハ其友人ナル本國(英國)下院議員ノ一人ニ本日事件ノ詳細ヲ打電スヘシト辯シ居レル處自分トシテハ最早之ヲ抑止スルコト能ハサル次第ニテ其結果或ハ外交上面白カラサル事端ヲ惹起スルニ至ルヤモ計リ難シ(四)自分トシテハ本件ハ地方的ニ(關東廳限り)解決サレ得ヘキモノト思慮シ且ツ希望スル處ナルモ(三)ノ如キ外交問題惹起シタル曉ハ其責任問題ニ付テハ自分ハ全然之ニ關知致難シ云々

右ニ對シ小官ハ

關 東 廳

事件解決ニハ折角努力シ居ル次第ニシテ且ツ迅速ナル解決ヲ希ヒ居ル次第ハ貴見ニ讓ラサル所ナルモ目下本件カ檢察局ニ於テ公正且慎重ナル調査中ニ屬シ居リ此際小官ヨリ司法當局ヲ指揮スル等ハ絶對不可能ナル關係モアルニ付事情篤ト了承アリ度尙本件ノ迅速解決方ニ付テハ至極同感ナルヲ以テ此上トモ關係官憲ニ其ノ旨依頼致スヘシ又事件ヲ阻止スルモノアリトノコトハ未タ全ク聞知セサル處ニシテ如斯事實ハ全然無之ヘシト信ス云々

ト應酬致置キタル處同領事代理ハ本事件延引スルハ貴官ノ責任ニ非ラサルコトハ了解シ居ル處ニシテ又故意ニ事件ヲ延引セシムルモノナキ趣モ了解セリ只東洋ニ在住スル英國人ハ本事件ニ付テハ當地方ノ新聞記事以外ニハ未タ何等ノ他ノ記事ヲ見聞シ居ラス只管延引ヲ懸念シ居ル次第ナル此點モ自分トシテハ心苦シキ立場ニアリ且又事件延引ハ日英兩國ノ關係上甚遺憾ニ存スル次第ナリ云々ト附言シ會見約三十分ニシテ退廳セリ

關 東 廳

右不取敢狀況ノ一端トシテ申進候尙大要ハ貴官ヨリ長官閣下及關係ノ筋ヘモ御傳達煩度
重ネテ申進候 敬具

關
東
廳

新聞記事切抜添付省略

關
東
廳

F-0360

0128

寫

關外才三〇八号

昭和六年二月二十三日

陸軍機務官田口秀雄

在軍

英國領事代理 エロイール・デニグ 殿

拜啓 昨有貴國飛機 仲二處レ二月十二日附東京
長官光臨 同日十八日附の官光貴信ノ趣ハ當時直ニ
夫々關係ノ向ハ移轉レ置キタル次第ニ有之 而本
二日ハ官貴官ト御相談ノ際ハ官ヨリ申述置候
通り 本事件ハ日下極 緊要ニ於テ了 續キ迅速公正
且慎重取調中ニ處レ取調ノ内若シ付テハ本官ヨリ

關 東 廳

御通報申上ル自由ヲ 手出有セザルハ遺憾トスル処ニ御理解
得失當該官憲ノ取調モ程無ク終ラレ何令ノ決定ヲ
見セシムルハキコトハ官ノ期待ニ處ニ有之候ハ官ノ所
モ事情ノ内速ニ進行ヲ切望シ折角努力致シ居ル
次第ニ付右御了取 相成度此段申達得貴官候
敬 具

追即機務官ヨリ取調ノ結果ニ関見通報有之候次
才御申報申上ル可ク候條此致及念申添候

寫

關外中三〇九号

昭和六年二月三日

陸東艦事務官 田口秀雄

印

在京

外事課 河相造次郎

拜啓諸君 昨行機ノ仲ニ蒙リ二月十六日付ノ官宛
英國領事代理來信宛及送付順修御在國電
相取次同領事代理來信ハ當テ外務省ニ
送付致居サルニ付 容念 前回送付セル二月十日付
島官宛來信宛及貴官御査閱済ニ係ルニ付
十日付同領事代理來信宛送付茲ニ添付

關 東 廳

致置候ニ付 外務省ニ對テハ 官 同領事代理
酬振ト合セテ可然御取計煩ハ御依頼申上候 敬具
追テ右英國領事來信接到ノ節ハ御事段書
送付致置候モ 官 該酬際先方口吻ノ才
モアリ本日別紙宛ノ通り追信致置候條御了取
煩ハ申添候

(美濃半截罫紙)ナ

昭和六年二月二十五日午前二時五十分登二頁三番午後四時十三分着
暗
田辺秘書課長

河相外事課長

(ニ九) 英國飛行機ノ件ニ關シ本件が關東憲兵隊ヨリ
檢察官ノ手ニ移ルニ至リタル模様ハ將來外務大臣
ヘ電報ニ引續キ憲兵隊ノ報告通牒ヲ郵送シ置キ
タル次第ハ御承知ノ通ナル處ニテ日外務大臣ヨリ長
官宛本件其後ノ成行ニ付電照アリタルニ付其後ノ
事情一應檢察官ニ確ナル所本件取廻ハ本日午
後若クハ明朝迄ニ終了在京長官ノ指揮ヲ仰ク所
存ナル趣ナルニヨリ同大臣ニハ之ヲ待テ報告致シメキ
所存ナリ付テハ日表ニ檢察官ヨリ在京長官宛提出セ

外務省

(美濃半截罫紙)ナ

ル報告書並ニ意見書ノ大要ハ一應貴官ヨリ外務
大臣ヘ御傳ヘ置キ乞フ

外務省

(美濃半截野紙)ナ

昭和六年二月二十三日午後三時三十九分發 二月二十三日午後七時三十五分着
暗

河相外事課長

田辺秘書課長

電文紙

(三) 當方ノ参考ニ致度ニ付外國飛行機が本邦要
塞地帯ノ上空ヲ飛行可ニテ飛行シ又ハ同地帯内ニ
飛着陸シタル事例ノ有否及之ニ対スル我邦ノ探
知ノ処置(主トシテ司弦上ノ)並ニ國際航空條約締約
國ニ於テ夫々其ノ事項ノ要塞地帯上空ヲ外國航
空機が飛行可ニテ飛行シ且地帯内ニ飛行可ニテ着
陸シタル事例ノ有否及右ノ場合當該國ノ探知タル処
置(主トシテ司弦上ノ)其ノ他上記ニ關スル参考資料ニ

外務省

3. 6

(美濃半截野紙)ナ

付外務省ニ於テ御取調ノ上結果折返シ御電報預度

外務省

3. 6

F-0360

0132

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

電信案

電信課長

主

任

(起草)

昭和七年二月

五日

(原議用紙甲) 國語

件

名込綴

英田飛行機大建飛機

宛

在旅順

司令長官

暗

第一六號

田田秘書課長泰河相外務課長宛電報(三二)

宛外務課長宛電報

一本郵船なる例にて(一)大正十四年九月一日露國

飛行機一台下関要基地帯に着陸一台は廣

電信案

外務省

電送 1756
第6年2月25日 一分發

(原議用紙乙)ナ

島嶼要基地通過(四)昭和七年十月十日結速飛

行機由良要基地帯通過(以昭和五年七月十二

日伊國飛行機候機及下関要基地帯

通過 東京要基地帯内追濱海軍飛行

場に着陸し、諸例アリ(一)指定航路及禁止地帯

ヲ承認スル事(一)濃霧等不可抵抗力

又(四)指定航路、承認スル許可条件徹底ニ付

電信案

外務省

3.2

0133

F-0360

(原議用紙乙)ナ

ありしを禁止地帯ヲ知ラサレト主因ニテ王侯自係
 手傳ニ
 手傳件ヲ偶發セルモノ認メラレハ指定航路ニ承知
 セルモノ下関及東京湾要塞地帯ヲ軍事知ラズ使用
 地圖不精確ニ候及記録ヲ作ルノ無理ニ飛行ヲ
 為セルト原因ト認メラシムルカ孰シモ司法処分ニ付セラ
 レ入ルモノノ飛行機ハ解作シ現場ヲ相見セシ
 三外國ノ事例東洲困難ナリ

電信案

外務省

民間飛行機要塞地帯法違反者調

陸軍調

要塞名	慶置	人名	摘要
壹岐	起訴猶豫 六月間免状行得	一等飛行士 後藤勇吉	的山大島要塞地帯ヲ三區ニ不時着水 昭和二年八月二十九日
由良	和歌山已裁判所 検事ニ送致	一等飛行士 米沢峰藏	由良要塞地帯第三區外三千五百間内 上空飛行通過 昭和三年三月三日
壹岐	甘木裁判所 ハ送致	乾將顯	壹岐要塞地帯第三區上空通過 大正五年九月十三日
下関	起訴猶豫	藤中照男	下関要塞地帯内通過 昭和二年十月二日
下関	將來ヲ嚴ニ訓 戒シ司法處分 ニ付セ入	日本空輸 柳榮徳三郎	昭和四年七月六日下関要塞地帯内 通過 不可抗力

外國私行機要塞地帯侵犯原因調査表

事 件	事 因	事 由	事 由	事 由	事 由
昭和五年七月二十日 私行機要塞地帯侵犯	在留日大使館附近 ニ就キ朝鮮海峽附近ハ 要塞地帯ニ付テハ セシメ細部ノ区域ハ指 示ヲ受ケス	駐日大使館ヨリノ許 可條件書類到着 前日本國ノ出帆ス	指定航路ハ承知セシモ 北地帯ノ知ラス高城ヲ テ私航路官ヨリ領受 及對馬要塞ノ地帯ヲ 手ニシテ下國東部 要塞等ハ全然知ラ ズ	天候 氣象 ノ状態 東部方面 夕雲 下 國 方面雲低シ	北地帯侵犯 時ノ状況 東部方面 夕雲 下 國 方面雲低シ
昭和五年十月十一日 私行機要塞地帯侵犯	在留日大使館ハ時日ノ余 裕無カリハ為上南支 指定航路ヲ電報セシ ミニテ南支本ノ交付 セシ禁地帯ニ付テハ要 因ハ送付セス	駐日大使館ヨリノ許 可條件書類到着 前日本國ノ出帆ス	指定航路ハ承知セシモ 北地帯ノ知ラス高城ヲ テ私航路官ヨリ領受 及對馬要塞ノ地帯ヲ 手ニシテ下國東部 要塞等ハ全然知ラ ズ	天候 氣象 ノ状態 東部方面 夕雲 下 國 方面雲低シ	北地帯侵犯 時ノ状況 東部方面 夕雲 下 國 方面雲低シ
大正五年九月一日 私行機要塞地帯侵犯	在留日大使館ハ時日ノ余 裕無カリハ為上南支 指定航路ヲ電報セシ ミニテ南支本ノ交付 セシ禁地帯ニ付テハ要 因ハ送付セス	駐日大使館ヨリノ許 可條件書類到着 前日本國ノ出帆ス	指定航路ハ承知セシモ 北地帯ノ知ラス高城ヲ テ私航路官ヨリ領受 及對馬要塞ノ地帯ヲ 手ニシテ下國東部 要塞等ハ全然知ラ ズ	天候 氣象 ノ状態 東部方面 夕雲 下 國 方面雲低シ	北地帯侵犯 時ノ状況 東部方面 夕雲 下 國 方面雲低シ

大使ノ陳謝文

大使ノ陳謝文

私行機要塞地帯侵犯
原因調査表

大臣
次官

歐米局

條約局

關東州着陸英國飛行機ニ關スル件

(一六・二・二五)

一、在香港英國會社「フア」、イースタン、エア、コーボレーシオ
所屬飛行機ニ英人二名搭乗二月九日奉天ヨリ天津ニ飛行ノ途次大連
上空(關東州防禦營造物地帶)ニ飛行シタル上周水子陸軍飛行場(是
モ防禦營造物地帶)ニ着陸セリ
二、大連憲兵分隊長ハ直ニ現場ニ赴キ大連駐在英國領事立會ノ上現場
ニ於テ取調ヲ行ヒ引續キ憲兵分隊ニ召致シ取調ヲ了シタル結
果關東州防禦營造物地帶令及航空法違反トシテ事件ヲ關東州地方法
院檢察官ニ送致シ尙本人等ノ身柄ハ英國領事ニ依托シ携行品ハ假領
置シ機体ハ抑留ノ上周水子陸軍飛行場格納庫ニ格納セリ
三、右憲兵隊取調ニ依ルニ

外務省

5.8

(添付紙)ト

イ、搭乗者ハ天候不良ト地圖不完全トノ爲メ針路ヲ誤リシモノト
稱シ居レリ

ロ、本件飛行前奉天滯奉中ノ前記英國會社理事ハ大連駐在英國領
事ニ對シ關東州通過支障ノ有無ヲ照會シ來リ同領事ハ旅大地方
ハ要塞地帶ニシテ陸軍大臣ノ許可ヲ得サレハ飛行スル能ハス尙
周水子ニハ飛行場アルモ同シク要塞地帶内ナリト回答セル結果
搭乗者ハ旅大ノ要塞地帶ナルコト及要塞上空ヲ無斷飛行スルト
キハ處罰ヲ受クルコトヲ承知シ居レリ且關東州ヲ飛行スル場合
要塞地帶法以外ニ國際航空條約及日本ノ航空法ニ準據スヘキコ
トモ熟知シアリ
ハ、本飛行機ハ國籍及登録記號並ニ耐航證明書航空日誌ヲ具備セス

外務省

5.8

F-0360

0136

別紙通付
四
五

四 關東廳秘書課長ヨリ在京中ノ河相外事課長宛二十三日電報ヲ以テ
地方法院檢察官ニ於テハ本件取調ヲ二十四日中ニ終了在京關東長官
ノ指揮ヲ仰ク所存ナル趣申越スト共ニ先例調査方依頼越セリ（二十
五 日 中 ニ 四 日 ノ 答）
河相外事課長ノ言ニ依ルニ關東長官ニ於テハ檢察官ニ對シ本件ハ
先例ニ準テ法ノ命スル所ニ從ヒ措置スヘキモ法ノ命スル以外ノ
被告ノ負擔ハ極力之ヲ排除スルニ努ムヘシトノ趣旨ヲ指示スル答ナ
ル趣ナリ（神書）

（添）神書ト

外務省

關係法規拔萃

（添）神書ト

一 關東州防禦營造物地帶令（勅令）
第四條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ、
又ハ防禦營造物地帶内ヲ航空スルヲ得ス
航空ノ許否ニ關シテハ要塞司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第十五條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ一年以下ノ懲役若ハ十
一日以上ノ拘留又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ二百圓以上ノ科料ニ處
ス
（略）
三 第四條乃至第六條ニ違反シタル者
（略）

外務省

ニ關東州ニ於ケル航空ニ關スル件（勅令）

關東州ニ於ケル航空ニ關シテハ第三十九條、第四十二條及第四十七條ヲ除クノ外航空法ニ依ル但シ同法第三十三條中日本國外トアルハ關東州外、日本國內トアルハ關東州内、日本國トアルハ關東州トシ（以下略）

ニ航空法（大連憲兵隊ニ於テ本法ノ孰レノ條項ヲ擬律セルモノナリヤ判明ナラス）

第三十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第三十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機又ハ日本國外ヨリ發航シ著

外務省

陸スルコトナクシテ日本國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ

第三十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

（略）

一（略）第三十二條ノ規定ニ違反シタル者

（略）

外務省

第五十七條 (略) 第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 (略) 第三十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

關東州裁判令(勅令)

第一條 關東廳法院ハ關東長官ニ直屬シ關東州ニ於ケル民事刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 關東州法院ヲ分チテ地方法院及高等法院トス(略)

第十條ノ二 各法院ニ檢察局ヲ併置ス

檢察局ハ關東長官ニ直屬シ關東州ニ於ケル檢察事務ヲ掌ル

(添) 様紙 ト

参考二(陸軍省調)

民間飛行機要塞地帯法違反者調査

要塞名	慶置人	摘	要
壹岐	起訴猶豫 二月間免状行傳 永歌山已裁判所 横事ニ送致	一草船行出 後藤勇吉 一草船行士 米沢峰藏	的山大島要塞地帯一芥ニ匹ニ不時着水 昭和二年八月二十九日 内良要塞地帯第三巴外三千五百間内 上空飛行(通過) 昭和三年三月三日
由良	甘木裁判所 ハ送致	乾 將興	壹岐要塞地帯第三巴上空通過 大正十五年九月十三日
壹岐	起訴猶豫	藤中照男	下関要塞地帯内通過 昭和二年十月二日
下関	將來ヲ嚴ニ訓 戒レヨト處分 ニ附セ入	日本空輸 柳葉徳三郎	昭和四年七月六日下関要塞地帯内 通過 不可抗力

外國飛行機要害地帯侵犯原因調査表

事 件	事 因	本國出航前知 得レリト禁禁止区 域ニ関スル事項	駐日大使館ノ帝國 政府許可條件傳 達ノ方法及其 内容	操縦士ノ許可條件 就中禁止地帯 知得ノ程度	天候 氣象 ノ状態	地帯侵犯 時ノ状況	緯度経度 ノ表示
昭和五年七月三日帝國 飛行機下関方面 侵犯	昭和五年七月三日帝國 飛行機下関方面 侵犯	在日大使館海軍官 ニ就キ朝鮮浦項附近ハ 要害地帯ナルコトヲ知 セシメ細部ノ区域ハ指 示ヲ受ケタス	伊田大使館ヨリノ許 可條件書類到着 前本國ノ出航ス	指定航路ハ承知セシモ禁 止地帯ハ知ラズ高城ヲ テ航路ニ合ヨリ鎌倉 及對馬要害ノ地帯ヲ 示セラル下関方面高 西要害等ハ全然知ラ ズ	鎌倉方面 雲低シ 下関方面 雲低シ 車高海方面 夕靄	高城ヨリ對山ヲ經テ廣 島ニ向テ途中雲低シ 高城ヨリ對山ヲ經テ廣 島ニ向テ途中雲低シ 高城ヨリ對山ヲ經テ廣 島ニ向テ途中雲低シ	日本ノ地理ヲ概知シ ノ位置ヲ知ルセザルヲ 即航路ニ合ハズ高城 ル注意スルヲサレド 使用地圖ハ不精確天候 並航路ノ作ル者等 上ノ點ヲ行ハズ行キ テ東京ヨリ出ス
昭和三年十月十日帝國 飛行機由良要害 侵犯	昭和三年十月十日帝國 飛行機由良要害 侵犯		帝國大使館ハ時日ノ余 餘無カリト爲上関 指定航路ヲ電報セシ ミシテ帝國政府ノ交付 セシ禁止區域等ノ要圖 ハ送付セス	指定航路ハ承知セ シモ禁止地帯ノ内 要害ハ知ラズ	海霧ノ雲低シ	高知ヨリ由良ニ向テ東 中ノ天候陰雨ノ後 ハ霧ヲ承知アリシモ 近接シテ禁止地帯 ノハ知ラズ北ニ進 ノト折リテ之ヲ避 ル航路ヲ北方ニ改メ ミ又折リ由良要害 ヲ通過スルコト	飛行機ノ侵犯シテ ウサレモ主因ニシテ 候ノ關係事項ヲ保 念セシム
大正四年九月一日帝國 飛行機下関及廣 島要害侵犯	大正四年九月一日帝國 飛行機下関及廣 島要害侵犯			指定航路及禁止地 帯(下関及廣島)要 害ハ承知ス	雲低シ	大正四年九月一日 高知ヨリ山ノ内川 附近ニ進ムハ 霧ヲ承知アリシモ 近接シテ禁止地帯 ノハ知ラズ北ニ進 ノト折リテ之ヲ避 ル航路ヲ北方ニ改メ ミ又折リ由良要害 ヲ通過スルコト	北京ニ於テ日本ハ使 月一日ハ二十日 陰雨ニ當リテ日 スルヲ勸誘セシ ミ入航ヲ決行セ テ禁止地帯ニ 雖モ飛行機ヲ行 一回タリ

大使ノ陳謝文

大使ノ陳謝文

限テ力ノ不十分ナル
限メテ改善セシメ
機件ヲ整備シテ後
私等ヨリ報告ス

陸軍省
第二課
第三課

秘

C10.0.0.5 /
(分類 F.110.0.4-4)

關東州着陸英國飛行機ニ關スル件 (ホニニ五)
一在香港英國會社「フアー、イースタン、エア、コーポレーション」
所屬飛行機ニ英人二名搭乗二月九日奉天ヨリ天津ニ飛行ノ途次大連
上空(關東州防禦營造物地帯)ニ飛行シタル上周水子陸軍飛行場(是モ防禦營造物地帯)ニ着陸セリ
ニ大連憲兵分隊長ハ直ニ現場ニ赴キ大連駐在英國領事立會ノ上現場
ニ於テ取調ヲ行ヒ引續キ憲兵分隊ニ召致シ取調ヲ了シタル結
果關東州防禦營造物地帯令及航空法違反トシテ事件ヲ關東州地方法
院檢察官ニ送致シ尙本人等ノ身柄ハ英國領事ニ依托シ携行品ハ假領
置シ機体ハ抑留ノ上周水子陸軍飛行場格納庫ニ格納セリ
ニ右憲兵隊取調ニ依ルニ

外務省

5.8

(赤枠紙)

イ、搭乗者ハ天候不良ト地圖不完全トノ爲メ針路ヲ誤リシモノト
稱シ居レリ

ロ、本件飛行前奉天滯奉中ノ前記英國會社理事ハ大連駐在英國領
事ニ對シ關東州通過支障ノ有無ヲ照會シ來リ同領事ハ旅大地方
ハ要塞地帯ニシテ陸軍大臣ノ許可ヲ得サレハ飛行スル能ハス尙
周水子ニハ飛行場アルモ同シク要塞地帯内ナリト回答セル結果
搭乗者ハ旅大ノ要塞地帯ナルコト及要塞上空ヲ無斷飛行スルト
キハ處罰ヲ受クルコトヲ承知シ居レリ且關東州ヲ飛行スル場合
要塞地帯法以外ニ國際航空條約及日本ノ航空法ニ準據スヘキコ
トモ熟知シアリ
ハ、本飛行機ハ國籍及登録記號並ニ耐航證明書航空日誌ヲ具備セス

外務省

5.8

F-0360

0141

外國人ハ内地要港
地帯ニ航行著陸
及例禁網アリ勿レモ
不可禁カト云々司長
外令ヲ執ラス

四 關東廳秘書課長ヨリ在京中ノ河相外事課長宛二十三日電報ヲ以テ
地方法院檢察官ニ於テハ本件取調第二十四日中ニ終了在京關東長官
ノ指揮ヲ仰ク所存ナル趣申越スト共ニ先例調査方依頼越セリ（二十
五日中ニ回電ノ答）
河相外事課長ノ言ニ依ルニ關東長官ニ於テハ檢察官ニ對シ本件ハ
先例ニ準ジテ法ノ命スル所ニ從ヒ措置スヘキモ法ノ命スル以外ノ
被告ノ負擔ハ極力之ヲ排除スルニ努ムヘシトノ趣旨ヲ指示スル答ナ
ル趣ナリ（神長）

（添一梓紙）ト

（添一梓紙）ト

關係法規拔萃

一 關東州防禦營造物地帶令（勅令）

第四條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ、ハ、ハ、ハ、

又ハ防禦營造物地帶内ヲ航空スルヲ得ス

航空ノ許可ニ關シテハ要塞司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ一年以下ノ懲役若ハ十

一日以上ノ拘留又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ二百圓以上ノ科料ニ處

ス

（略）

三 第四條乃至第六條ニ違反シタル者

（略）

ニ關東州ニ於ケル航空ニ關スル件（勅令）

關東州ニ於ケル航空ニ關シテハ第三十九條、第四十二條及第四十七條ヲ除クノ外航空法ニ依ル但シ同法第三十三條中日本國外トアルハ關東州外、日本國內トアルハ關東州内、日本國トアルハ關東州トシ（以下略）

ニ航空法（大連憲兵隊ニ於テ本法ノ孰レノ條項ヲ擬律セルモノナリヤ判明ナラス）

第三十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第三十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機又ハ日本國外ヨリ發航シ著

外務省

陸スルコトナクシテ日本國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ

第三十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

（略）

一（略）第三十二條ノ規定ニ違反シタル者

外務省

秘

關東州着陸英國飛行機ニ關スル件 (六、三、二五)
一 在香港英國會社「フア」、イトスタン、エア、コーボレーション
所屬飛行機ニ英人二名搭乗二月九日奉天ヨリ天津ニ飛行ノ途次大連
上空(關東州防禦營造物地帯)ニ飛行シタル上周水子陸軍飛行場(一
是モ防禦營造物地帯)ニ着陸セリ
二 大連憲兵分隊長ハ直ニ現場ニ赴キ大連駐在英國領事立會ノ上現場
ニ於テ取調ヲ行ヒ引續キ憲兵分隊ニ召致シ取調ヲ了シタル結
果關東州防禦營造物地帯令及航空法違反トシテ事件ヲ關東州地方法
院檢察官ニ送致シ尙本人等ノ身柄ハ英國領事ニ依托シ携行品ハ假領
置シ機体ハ抑留ノ上周水子陸軍飛行場格納庫ニ格納セリ
三 右憲兵隊取調ニ依ルニ

外務省

5.8

(赤枠紙)ト

第五十七條 (略) 第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下
ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十一條 (略) 第三十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以
下ノ罰金ニ處ス
四 關東州裁判令(勅令)
第一條 關東廳法院ハ關東長官ニ直屬シ關東州ニ於ケル民事刑事事
ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル
第二條 關東州法院ヲ分チテ地方法院及高等法院トス(略)
第十條ノ二 各法院ニ檢察局ヲ併置ス
檢察局ハ關東長官ニ直屬シ關東州ニ於ケル檢察事務ヲ掌ル

外務省

5.8

(赤枠紙)ト

F-0360

0144

イ、搭乗者ハ天候不良ト地圖不完全トノ爲メ針路ヲ誤リシモノト
稱シ居レリ

ロ、本件飛行前奉天滯奉中ノ前記英國會社理事ハ大連駐在英國領
事ニ對シ關東州通過支障ノ有無ヲ照會シ來リ同領事ハ旅大地方
ハ要塞地帯ニシテ陸軍大臣ノ許可ヲ得サレハ飛行スル能ハス尙
周水子ニハ飛行場アルモ同シク要塞地帯内ナリト回答セル結果
搭乗者ハ旅大ノ要塞地帯ナルコト及要塞上空ヲ無斷飛行スルト
キハ處罰ヲ受クルコトヲ承知シ居レリ且關東州ヲ飛行スル場合
要塞地帯法以外ニ國際航空條約及日本ノ航空法ニ準據スヘキコ
トモ熟知シアリ

ハ、本飛行機ハ國籍及登録記號並ニ耐航證明書航空日誌ヲ具備セス

外務省

(添付紙)ト

5.8

外國人カ由地帯
地帯ニ飛行着陸
セシ例數個アリ
何レモ不可抗カト思
司法知分ヲ蒙ラス

四、關東廳秘書課長ヨリ在京中ノ河相外事課長宛二十三日電報ヲ以テ
地方法院檢察官ニ於テハ本件取調ハ二十四日中ニ終了在京關東長官
ノ指揮ヲ仰ク所存ナル趣申越スト共ニ先例調査方依頼越セリ(二十

五日中ニ回答ノ答)

五、河相外事課長ノ言ニ依ルニ關東長官ニ於テハ檢察官ニ對シ本件ハ
被告ノ負擔ハ極力之ヲ排除スルニ努ムヘシトノ趣旨ヲ指示スル答ナ
ル趣ナリ(神志)

外務省

5.8

F-0360

0145

關係法規拔萃

一 關東州防禦營造物地帶令（勅令）

第四條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ、
又ハ防禦營造物地帶内ヲ航空スルヲ得ス

航空ノ許可ニ關シテハ要塞司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第十五條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ一年以下ノ懲役若ハ十
一日以上ノ拘留又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ二圓以上ノ料料ニ處
ス

（略）

三 第四條乃至第六條ニ違反シタル者

（略）

（赤梓紙）ト

5.8

外務省

二 關東州ニ於ケル航空ニ關スル件（勅令）

關東州ニ於ケル航空ニ關シテハ第三十九條、第四十二條及第四十
七條ヲ除クノ外航空法ニ依ル但シ同法第三十三條中日本國外トア
ルハ關東州外、日本國內トアルハ關東州内、日本國トアルハ關東
州トシ（以下略）

三 航空法（大連憲兵隊ニ於テ本法ノ孰レノ條項ヲ擬律セルモノナリ
ヤ判明ナラス）

第三十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ク
ルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第三十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ若ハ日本國內
ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機又ハ日本國外ヨリ發航シ著

（赤梓紙）ト

5.8

外務省

F-0360

0146

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

陸スルコトナクシテ日本國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ

第三十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

(略)

一 (略) 第三十二條ノ規定ニ違反シタル者

(略)

外務省

第五十七條 (略) 第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 (略) 第三十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

四 關東州裁判令 (勅令)

第一條 關東廳法院ハ關東長官ニ直屬シ關東州ニ於ケル民事刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 關東州法院ヲ分テテ地方法院及高等法院トス (略)

第十條ノ二 各法院ニ檢察局ヲ併置ス

檢察局ハ關東長官ニ直屬シ關東州ニ於ケル檢察事務ヲ掌ル

外務省

秘

密

關東州着陸英國飛行機ニ關スル件 (ヤ、ニ、ニ)

一在香港英國會社「フア」、イースタン、エア、コーボレーシオン
 所屬飛行機ニ英人二名搭乗二月九日奉天ヨリ天津ニ飛行ノ途次大連
 上空(關東州防禦營造物地帶)ニ飛行シタル上周水子陸軍飛行場(は
 是モ防禦營造物地帶)ニ着陸セリ

ニ大連憲兵分隊長ハ直ニ現場ニ赴キ大連駐在英國領事立會ノ上現場
 ニ於テ取調ヲ行ヒ引續キ憲兵分隊ニ召致シ取調ヲ了シタル結
 果關東州防禦營造物地帶令及航空法違反トシテ事件ヲ關東州地方法
 院檢察官ニ送致シ尙本人等ノ身柄ハ英國領事ニ依托シ携行品ハ假領
 置シ機体ハ抑留ノ上周水子陸軍飛行場格納庫ニ格納セリ

ニ右憲兵隊取調ニ依ルニ

(添付紙ト)

外務省

5.8

イ、搭乗者ハ天候不良ト地圖不完全トノ爲メ針路ヲ誤リシモノト
 稱シ居レリ

(添付紙ト)

ロ、本件飛行前奉天滯奉中ノ前記英國會社理事ハ大連駐在英國領
 事ニ對シ關東州通過支障ノ有無ヲ照會シ來リ同領事ハ旅大地方
 ハ要塞地帶ニシテ陸軍大臣ノ許可ヲ得サレハ飛行スル能ハス尙
 周水子ニハ飛行場アルモ同シク要塞地帶内ナリト回答セル結果
 搭乗者ハ旅大ノ要塞地帶ナルコト及要塞上空ヲ無斷飛行スルト
 キハ處罰ヲ受クルコトヲ承知シ居レリ且關東州ヲ飛行スル場合
 要塞地帶法以外ニ國際航空條約及日本ノ航空法ニ準據スヘキコ
 トモ熟知シアリ

ハ、本飛行機ハ國籍及登録記號並ニ耐航證明書航空日誌ヲ具備セス

外務省

5.8

F-0360

0148

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

ニ關東州ニ於ケル航空ニ關スル件（勅令）

關東州ニ於ケル航空ニ關シテハ第三十九條、第四十二條及第四十七條ヲ除クノ外航空法ニ依ル但シ同法第三十三條中日本國外トアルハ關東州外、日本國內トアルハ關東州内、日本國トアルハ關東州トシ（以下略）

ニ航空法（大連憲兵隊ニ於テ本法ノ孰レノ條項ヲ擬律セルモノナリヤ判明ナラス）

第三十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第三十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機又ハ日本國外ヨリ發航シ著

外務省

5.8

（赤印紙）

陸スルコトナクシテ日本國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ

第三十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

（略）

一（略）第三十二條ノ規定ニ違反シタル者

（略）

外務省

5.8

F-0360

0150

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

第五十七條 (略) 第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 (略) 第三十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

四 關東州裁判令 (勅令)

第一條 關東廳法院ハ關東長官ニ直屬シ關東州ニ於ケル民事刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 關東州法院ヲ分チテ地方法院及高等法院トス (略)

第十條ノ二 各法院ニ檢察局ヲ併置ス

檢察局ハ關東長官ニ直屬シ關東州ニ於ケル檢察事務ヲ掌ル

秘

陸軍外務大臣

第一三號

本 省 二月十日

陸軍省

照

電信寫

九日午後一時四十分國籍表示ナキ一航空機周水子飛行場方面ヨリ大連上空ニ現ハレ大廣場附近旋回ノ後再び周水子上空ヲ金州ニ飛ヒ去リシカ引返ベシ午後一時五十分同飛行場ニ着陸セシヲ以テ直ニ大連憲兵隊長ニ於テ當廳警察官、航空官、要務司令官副官立會ノ上現場ヲ檢閲セルカ右ハ在香港英商「フアード・イースタン・エアコーポレーション」航空機（操縦者英國人「ハートベ」外乗組士一名）ニシテ機内ノ由立ニ依リ八日午前十一時四十五分奉天大連ヘ向ケ飛

行ノ途中降雪ノ爲針路ヲ誤リ當地ヘ飛來セシ故に取調中等ノ事實ナキモ容疑ノ點アリ引續キ取調中
拓務大臣ヘ轉報ヲ請フ

秘

電信寫

陸原外務大臣

第一六號

往電第一三號ニ關シ

飛行士「ハーベ」(二五)機士「ナットマン」(三〇)ニ付取
調ヘタルニ「ハ」ハ一九二五年空軍二等中尉トシテ英國空軍ニ入隊
シ機體法夜間爆撃法ヲ練習シタル後約一年間教官ヲ勤メ昨年一等中
尉ニ進級辭職シタルモノナリ又「ナ」ハ一九二一年香港駐在英國空
軍ニ入隊シ「昨年軍曹ニテ除隊セラレタルモノナリ又同人等使用ノ
飛行機ハ「アプロ」式二三〇馬力」ニシテ萬國航空法ニ規定セル

國勢及空軍記號並ニ制號規則等航空目録ヲ有セメ凱門ニ屬スル航空
ノ機體ハ概シテ率直ニシテ特ニ事實ヲ顯現スルカ如キ風ナリシ
ナルモ北寧線ニ從ヒ奉天天津間ヲ飛行スル場合ハ飛行上ノ位置目
録トシテ常ニ注意スヘキ渤海灣海面ハ機體ノ左側ニ在リ例ヘ本件
飛行機カ北寧線ト海帶子營口間支線トヲ見誤マリ營口大石橋ヲ經テ
南下シ來リタリトノ兩名ノ陳述ヲ事實ナリトスルモ營口以南ハ極續
シテ渤海灣ヲ右側ニ見タル事實特ニ金州附近以南ハ渤海灣實地ヲ左
右兩側ニ展望シタル事實ニ付何等不思議ヲ起サズ依然關東州ニ立入
リタルニ非ズヤトノ疑ヲ抱カザリシトノ陳述ニ付テハ首肯シ難キ節
アリ「大連上空ヲ飛過シタル際都市ノ結構等ヨリ支那街ニ非サルヘ
シト感附キサカラ奏皇島ト間違ヘタリトノ陳述ハ疑ヲ容ルル餘地ア

ル處ニ要塞地帯内上空ノ飛行ニ付テハ或ハ要塞其ノモノヲ望観セザ
リシヤモ知レス從テ果シテ多大ノ實害ヲ與ヘタリヤニ付テハ疑アル
モ少クトモ要塞地帯ノ上空ヲ飛翔シタルハ實害ヲ與ヘタルモノト推
定スルノ已ムナキコト以上ノ事實ニ基キ本件ハ遺憾ナカラ憲兵隊ノ
手ヨリ當廳檢察官ノ手ニ移スノ已ムナキ事トナリタルカ出來得ル
丈速ニ結案ニ至ラシムル機取計フ答委細公信
拓務大臣ニ轉報ヲ請フ
代理公使、北平、天津へ轉電セリ

地檢第三五號

昭和六年二月二十六日



關東廳地方法院檢察官長代理檢察官 池 内 眞 清

關東長官 塚 本 清 治 殿

犯 罪 報 告 ノ 件

本月十二日附地檢第二三號ヲ以テ及報告候アサーハアーヴエー外一人ニ對スル航空法違反等事件ニ付捜査中ノ處アサーハアーヴエーニ對シ左記(一)記載事實其證明十分ナルモノト認メ本日略式命令ヲ以テ公判請求ヲ爲シタツトマシニ對シテハ左記(二)記載ノ理由ニ依リ同日不起訴處分ニ付シ候條及報告候也

(一) 被告アサーハアーヴエーハ西曆一千九百二十五年七月ヨリ英國空軍ニ二等中尉トシテ入隊シ一ケ年間操縦ノ練習ヲ爲シ三ケ年間爆撃法ヲ習得シ其後四ケ月間教官ノ見習ハケ月間教官ヲ爲シタル後チ一等中尉ニ進級辭職後同一千九百三十年六月一日ヨリ在香港極東飛行株式會社ニ豫備士トシテ被雇今日ニ至リタルモノナル處同會社カ昨年十月頃ヨリ其所有ノアプロー飛行機ヲ支那側政府ニ賣込宣傳ノ爲メ一度奉天ニ解体輸送シ同所ニ於テ組立テ奉天附近ニ於テ盛ニ飛行ヲ爲シ其實込宣傳ヲ爲シ居タルカ奉天ノ支那側要路者ニ於テモ早急ニ買入ノ見込立タル模様ナルヨリ更ニ之ヲ以テ奉天ヨリ南京ニ飛翔シ同所ニ於テ賣込宣傳ヲ爲スコトニ計畫ヲ立テ其飛行操縦士トシテ當時上海ニ居タル被告カ赴奉スルコトナリ被告ハ本年一月二十

一日奉天ニ到着シ爾來同所ニ於テ右飛行ノ計畫ヲ樹テ其航路ヲ奉天ヨリ溝幫子ニ直行シ同所ヨリ北寧線ヲ目標トシテ天津ニ出テ更ニ天津ヨリ濟南ヲ經テ南京ニ至ルコトニ決定シ本年二月九日右飛行決行ノ爲メ支那側陸軍飛行場ニ於テ機關士ダツドマンヲ同乗セシメテ午前十一時四十五分頃同地ヲ出發シタルカ其飛行ニ付キテノ準備十分ナラザリシ爲メ該飛行場出發後直チニ南滿線（奉天ヨリ大連ニ至ル鐵道線路）ニ乘リ蘇家屯上空ヲ經テ該線路上ヲ南行シタルカ被告ハ右南滿線路上ニ出テタルトキヨリ自己ノ目標トスル鐵道線路カ南滿洲鐵道線路ナルコトヲ知リタルニ拘ラス豫定ノ航路タル奉天ヨリ溝幫子ニ至ル線乃至北寧線（奉天ヨリ天津ニ至ル鐵道線路）ニ引返スコトナク漫然南滿線ニ沿ヒテ南下シ遂ヒニ關東州内ニ這入り更ニ周水子驛ノ南滿本線ト旅順線分歧點附近ヨリ金州管内小孤山會ニカゲ

テヨリ以南ノ大連灣大連附近上空ニカケテハ關東州防禦營造物地帶令ニヨリ陸軍大臣ノ指定シタル防禦營造物地帶タルノ情ヲ知リ乍ラ要塞司令官ノ許可ヲ得ス其地帶内タル周水子驛軍飛行場上空ヨリ大連市上空ニ至リ更ニ引返シテ南關嶺上空附近ニ至リ同所ヨリ再ヒ右飛行上空ニ引返シテ同日午後一時五十分同飛行場ニ着陸シ仍テ要塞司令官ノ許可ヲ得シテ關東州内ノ防禦營造物地帶内ヲ航空シタルモノナリ

(二) ダツドマンハ機關士トシテ右アサーハアーヴエート共ニ英國飛行機ニ塔乗シ要塞司令官ノ許可ヲ受ケスシテ大連市上空其他附近ノ要塞地帶ヲ飛行シタリト謂フニアルモ同人カ要塞地帶タルノ情ヲ知リテ飛行シタリトノ證明ナシ

寫送先

電信課長
大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事
文書
會議

分類 C 10.0.0.7/1

電信課長

昭和6

二五一三

暗

關東廳
本省

廿七日後發
二月廿七日後着

亞一

幣原外務大臣

塚本關東長官

第一九號

貴電第一五號ニ關シ

檢察官ハ飛行士「ハーバー」ニ對シ關東州防禦營造物地帶令違反
ノ廉ニ依リ廿六日夜起訴（不拘束ノ儘）ノ手續ヲ了シ機關士「ナ
ットマン」ハ證據不充分ニ付不起訴處分ニ付シ尙「ハーバー」ノ
起訴ニ付テハ略式裁判ヲ請求セリ
右不取敢追テ起訴狀ハ貴官限り別送ス
公使ヨリ上海ヘ轉報請フ

外務省

支、北平、香港ヘ轉電セリ

外務省

F-0360

0157

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

亞細亞局

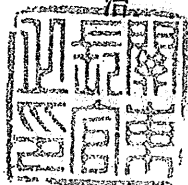
昭和六年二月二十七日

關東長官 塚本清治

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

往電第十九號ニ關シ池内檢察官ノ起訴狀寫及送付候

敬具



昭和六年三月四日 別紙添附 接収

六三四 秘書長より受

關東廳

地檢第三五號

昭和六年二月二十六日

關東廳地方法院檢察官長代理檢察官 池内眞清

關東長官 塚本清治 殿

犯罪報告ノ件

本月十二日附地檢第二三號ヲ以テ及報告候アサーハアーヴエー外一人ニ對スル航空法違反等事件ニ付捜査中ノ處アサーハアーヴエーニ對シ左記(一)記載事實其證明十分ナルモノト認メ本日略式命令ヲ以テ公判請求ヲ爲シダツドマンニ對シテハ左記(二)記載ノ理由ニ依リ同日不起訴處分ニ付シ候條及報告候也

記

關東廳

F-0360

0158

(一) 被告アサーハアーヴエーハ西曆一千九百二十五年七月ヨリ英國空軍ニ二等中尉トシテ入隊シ一ケ年間操縦ノ練習ヲ爲シ三ケ年間爆撃法ヲ習得シ其後四ケ月間教官ノ見習ハケ月間教官ヲ爲シタル後チ一等中尉ニ進級辭職後同一千九百三十年六月一日ヨリ在香港極東飛行株式會社ニ操縦士トシテ被雇今日ニ至リタルモノナル處同會社カ昨年十月頃ヨリ其所有ノアプロー飛行機ヲ支那側政府ニ賣込宣傳ノ爲メ一度奉天ニ解體輸送シ同所ニ於テ組立テ奉天附近ニ於テ盛ニ飛行ヲ爲シ其賣込宣傳ヲ爲シ居タルカ奉天ノ支那側要路者ニ於テモ早急ニ買入ノ見込立タル模様ナルヨリ更ニ之ヲ以テ奉天ヨリ南京ニ飛翔シ同所ニ於テ賣込宣傳ヲ爲スコトニ計劃ヲ立テ其飛行操縦士トシテ當時上海ニ居タル被告力赴奉スルコトトナリ被告ハ本年一月二十一日奉天ニ到着シ爾來同所ニ於テ右飛行ノ計劃ヲ樹テ其航路ヲ奉天ヨリ溝帮子ニ直行シ同所ヨリ北寧線ヲ目標トシテ天津ニ出テ更ニ天津ヨリ濟南ヲ經テ南京ニ至ルコトニ決定シ本年二月九日右飛行決行ノ爲メ支那側陸軍飛行場ニ於テ

關 東 廳

機關士ダツドマンヲ同乗セシメテ午前十一時四十五分頃同地ヲ出發シタルカ其飛行ニ付キテノ準備十分ナラザリシ爲メ該飛行場出發後直チニ南滿鐵(奉天ヨリ大連ニ至ル鐵道線路)ニ乘リ蘇家屯上空ヲ經テ該線路上ヲ南行シタルカ被告ハ右南滿鐵路上ニ出テタルトキヨリ自己ハ目標トスル鐵道線路カ南滿鐵道線路ナルコトヲ知リタルニ拘ラス豫定ノ航路タル奉天ヨリ溝帮子ニ至ル線乃至北寧線(奉天ヨリ天津ニ至ル鐵道線路)ニ引返スコトナク漫然南滿鐵道線ニ沿ヒテ南下シ遂ヒニ關東州内ニ遁入り更ニ周水子驛ノ南滿本線ト旅順線分岐點附近ヨリ金州管内小孤山會ニカケテヨリ以南ノ大連灣大連附近上空ニカケテハ關東州防禦營造物地帶令ニヨリ陸軍大臣ノ指定シタル防禦營造物地帶タルノ情ヲ知り乍ラ要塞司令官ノ許可ヲ得ス其地帶内タル周水子陸軍飛行場上空ヨリ大連市上空ニ至リ更ニ引返シテ南滿鐵道上空附近ニ至リ同所ヨリ再ヒ右飛行場上空ニ引返シテ同日午後一時五十分同飛行場ニ着陸シ仍テ要塞司令官ノ許可ヲ得スシテ關東州内ノ防禦營造物地帶内ヲ航空

關 東 廳

シタルモノナリ
(二) ダツドマンハ機關士トシテ右アサーハアヴエート共ニ英國飛行機ニ搭
乗シ要塞司令官ノ許可ヲ受ケスシテ大連市上空其他附近ノ要塞地帯ヲ
飛行シタリト謂フニアルモ同人カ要塞地帯タルノ情ヲ知リテ飛行シタ
リトノ證明ナシ

關東廳

關東廳

第一課

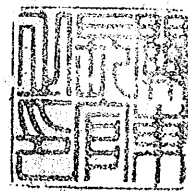
昭和六年貳月廿七日接受

號外

昭和六年二月二十七日

關東長官 塚本 清 治

外務大臣 幣原 喜重 郎 殿



英國飛行機我要塞地帯内不時着陸事件ニ關スル處分ノ件

首題ノ件ニ關シテハ處分ノ如何ニ拘ラス其ノ決定ヲ急速ニ爲スヘキ旨指示シテ關係當局
ノ取調ヲ督勵シ關東廳地方法院檢察局ニ於テ取調中ノ處昨二十五日完了シタル結果左記
事實ニ依リ本件操縦者ハ其犯跡ノ明ナルヲ關東州防禦營造物地帯令違反ニ問ヒ起訴スル
コトト決定(機關士ハ證據不充分ニ付不問ニ附ス)致候ニ付此段及報告候也

記

關東廳

一、奉天、天津間ノ鐵道ハ途中山海關、唐山間ヲ除クノ外全部單線
二、飛行機ハ奉天飛行場ヨリ蘇家屯、沙河煙台遼陽鞍山大石橋ヲ經由シテ大連ニ直行シタ
リ

一、殘存ガソリン量ヨリ推定ノ結果飛行距離ハ大体奉天ヨリ大連ニ到リ南關嶺ニ引返シ更
ニ周水子ニ到リシ距離ニ一致ス

一、羅針盤ハ相當精巧ノモノニシテ出發前修正シタル事實ナキモ過去約五年間空軍飛行ノ
經驗アル本人トシテ之ノ羅針盤ノ使用ヲ爲シ得サル旨ノ供述措信サレズ

一、州内要塞地帯ノ位置ニ付テハ軍籍殊ニ爆撃機操縦者タリシ本人トシテ或程度迄知り居
ル筈ナリト認定ヲ相當トス

一、飛行機ニ搭乘シテ經驗シタル結果機上ヨリ地上ノ鐵道線路ノミヲ見他ノモノヲ見ズシ
テ飛行スルコトハ事實上不可能ナルコト明トナリタリ

關 東 廳

一、當日奉天ヨリ大連迄ノ間ノ天候ハ大体ニ於テ晴、

以上ノ事實ニ基キ本人ガ奉天出發後一定時間鐵道線路ナキ地點ヲ飛ヒタル後ニ同線路
ニ出デタリト言フハ全ク偽ニシテ最初ヨリ南滿線ニ乘リ南下シタルモノト認ム可ク更
ニ本人ガ出發前奉天、天津間ノ鐵道線路ガ大部分單線ナルコトハ當然知り居ル筈ナレ
バ南滿線ノ復線ニ乘リ南下スルニ付之ヲ北寧線ナリト誤信シタリトノ供述モ措信出來
ズ

關 東 廳

寫送先

會文人文情條通歐亞
書事化報約商米細亞

大臣
次官

電信課長

分類 C/10.0.0.2/1

第二〇號

往電第一九號ニ關シ

大連地方法院ニ於テハ本廿八日「ハーバー」ニ對シ略式裁判ニテ二百圓ノ罰金ヲ言渡セル處被告ハ服罪セル趣ナリ尙判決書寫ハ貴官限リ郵送ス
公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ
支、北平、香港ヘ轉電セリ

幣原外務大臣

塚本關東長官

昭和6 二五八七

暗

關東廳
本省

廿八日後發
二月廿八日後着

亞

外務省

秘寫

昭和六年二月二十七日三浦關東長官代理長塚
本關東長官宛書報寫
英園飛行機事件ニ關シ檢察官ハ飛行士井
(ハアジエ)ニ對シ關東州防衛部警備地帯令
違反ノ虞ニ依リ二月十六日午後七時起訴(不拘束ノ
値)ノ手續ヲ了シ機関士(ダットマン)ハ証拠不充分
ニ付起訴通知分ニ附シ當(ハアジエ)ノ起訴ニ付テハ
累式裁判ヲ請求セリ右取敢
起訴狀ハ別送ス右ノ起訴外務大臣(書報セリ)
振務大臣(ハ關下)ヲ仰付(セリ)

外務省

3. 6

F-0360

0162

寫送先

會文人文情條通歐
計書事化報約商米

大臣
次官

電信課長

類C10.0.0.211

昭和6 二五九二 暗 關東廳 廿八日後發 亞
幣原外務大臣
第二二號
往電第二〇號ニ關シ
機体ハ本日午後二時ヨリ官憲立會ノ上解体シ海路上海ニ輸送セリ爲
念
前電ノ通轉電セリ

外務省

寫送先

會文人文情條通歐
計書事化報約商米

大臣
次官

電信課長

類C10.0.0.211

昭和6 二五九三 暗 關東廳 廿八日後發 亞
幣原外務大臣
第二一號
往電第二〇號ニ關シ
在大連英國領事代理ヨリ左ノ通電報越セリ御含ミ迄
I protest strongly against sentence imposed by summary court which I
consider most unjust. Fine has been paid to secure release of Mr. Harvey but
I am refering matter to my government for further action.
前電ノ通轉電セリ

外務省

F-0360

0163

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

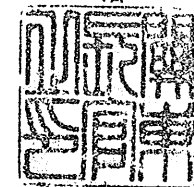
<http://www.jacar.go.jp>

號 外

昭和六年二月二十八日

關東長官 塚本清治

外務大臣 幣原重郎 殿



英國飛行機我要塞地帯内不時着陸事件ニ關スル大連駐在英國領事代理來信寫送付ノ件

首題ニ關シ三浦長官代理ヨリ本官宛別紙寫ノ通報告越有之候條爲御參考及送付候也

關 東 廳

關外第三一九號

昭和六年二月廿五日

三 浦 長 官 代 理

在 京
關 東 長 官 殿

大連駐在英國領事代理來信寫送付ノ件

飛行機事件ニ關聯シ二月二十三日附ヲ以テ大連英國領事代理ヨリ田邊事務官宛別紙寫ノ通來信有之候條右寫三部送付候ニ付御高閣相成度候也
追テ右寫一部ハ外務省ヘ御回送相煩度申添候

關 東 廳

F-0360

0164

Dairen Club
Dairen
23rd. Feby 1931.

H. M. B. Consul

Dairen.

Sir.

I feel the time has now come when I must ask you to lodge a protest on my behalf to the Japanese authorities, concerned with my accidently coming here by aeroplane.

When I landed here on the 9th Feby I realised there was an abundance of evidence to prove that the flying into the fortified zone was not intentional, at the same time I realised that enquires would have to be made, since my arrival there have been two very full inquires one by the Military authorities & the other by the Public Procurator, it is now a week since the Procurator saw me & at that time he informed me I could expect to hear from him in one or two days, however this information has not been forthcoming. So comply with the wishes of the Japanese authorities my Engineer & myself have kept ourselves in this building almost since the day we arrived & I must frankly say I am surprised at the treatment & lack of information that is connected with this case.

At this period I feel the less said the better.

I am Sir, Yours obediently,

A.V. Harvey.

- 2 -

for over a week, the restrictions which have been placed upon their movements by this requirement to be available at any time have proved exceedingly irksome.

3. Mr. Harvey has further mentioned to me that as a result of his prolonged detention his services are now urgently required in Shanghai, and I must therefore protest strongly against any further delay in the settlement of this case, which is now seriously interfering with a legitimate commercial enterprise in China.

I have the honour to be,

Sir,

Your obedient Servant,

Signed (M.E. Denning)

Acting British Consul

British Consulate,
Dairen,
23rd February, 1931

Sir,

I have the honour to enclose herewith an original letter which has been handed to me by Mr. A. V. Harvey, pilot of the AVRO bi-plane which unintentionally landed on the Choushuitzu Military on February 9th last. There is, I think, no need for me to comment upon the views expressed by him, since I explained my attitude to you fully during our interview at Port Arthur on the 21st instant. I can only point out that two days have now elapsed since that interview took place, and that on the fifteenth day after a harmless civil aeroplane has lost its way and innocently found itself under Japanese jurisdiction, no steps have been taken to comply with my request for the release of the aeroplane and its personnel, nor have I been informed why such a long delay is taking place in coming to a decision on the matter.

2. With regard to Mr. Harvey's complaint in the third paragraph of his letter that he and his engineer have been virtually confined to the Dairen Club, he is technically wrong in saying that this is by the wish of the Japanese authorities. The airmen were placed in my charge and I was responsible for sending them to the Dairen Club. But I was required to give an assurance that they would be available at any time they were required, and though they have now not been summoned by the authorities

for

H. Tanabe, Esquire,
Acting Chief of the Foreign Affairs Section,
Kwantung Government,
PORT ARTHUR.

- 2 -

their machine as soon as possible without any further action being taken against them.

3. With regard to the Procurator's investigations Mr. Harvey, the pilot, complains that the former does not himself appear to possess any knowledge of the technical details of aeroplanes and of flying and that his (Mr. Harvey's) evidence thereby appears to lose much of the weight which it would carry with a person in possession of the necessary qualifications. Mr. Harvey, moreover, doubts whether a single person amongst those who have examined him since the outset, has actually flown in an open aeroplane in mid-winter in Manchuria for any length of time and is therefore capable of fully appreciating the conditions under which he made his unfortunate flight. I have to thank you, however, for ensuring the presence of a more competent interpreter.

I have the honour to be,

Sir,

Your obedient Servant,

(signed) A. E. Dening

Acting British Consul

F-0360

0166

乙
第
5
British Consulate,
Dairen.
16th February, 1931.

Sir,

With reference to our conversation of the 13th instant, I have the honour to point out that this is the eighth day since Mr. A.V. Harvey and Mr. W.F. Dudman made their accidental landing in the Leased Territory with an Avro biplane, and that no decision has yet been reached, while the Procurator's examination is now continuing for the third day.

2. While I readily recognize the legal right of the Japanese authorities to take such action as their laws and regulations demand, I venture to think that a week should have furnished ample time to provide all the evidence required and to establish beyond doubt what has been a conviction in my mind for some time, that the airmen are innocent of anything but a technical and unintentional breach of the law. For this apologies have already been tendered, and I feel that the time has now arrived when I should be doing an injustice to two unfortunate British subjects, whose misfortunes to my mind are deserving rather of pity than of punishment, if I do not, on grounds of international courtesy and of the friendly relations between our two countries, most earnestly request that the Procurator's investigations be brought to a speedy conclusion and that the airmen be allowed to depart with their

The Acting Chief of the Foreign Affairs Section,
Kwantung Government,
PORT ARTHUR.

- 2 -

Japanese Authorities concerned.

I have the honour to be,

Sir,

Your Excellency's most obedient Servant,

(signed) A. E. Dening.

Acting British Consul.

寫 甲 号

British Consulate,

Dairen.

12th February, 1931.

Sir,

I have the honour to request that a British Avro bi-plane, piloted by Mr. A. V. Harvey, a British subject, with Mr. W. F. Dudman as engineer, which entered the Kwantung Leased Territory unknowingly, and ignorant of its whereabouts, landed on the Choushuitzu Military Aerodrome on the afternoon of February 9th, 1931, may be released together with its personnel, and in view of its accidental entry and the formal apologies which have been tendered therefor be allowed to leave the Leased Territory.

2. I have already expressed through the Chief of Your Excellency's Foreign Affairs Section my regret at the occurrence of this incident, and the fact that it has led to the infringement of the Japanese Aviation Law and the Ordinance with regard to Strategic Zones. But I venture to think that an aeroplane which by accident and through weather conditions has entered your territory, thereby unconsciously infringing the laws thereof, is deserving of special consideration.

Your Excellency will also readily appreciate that the continued detention of this aeroplane and its personnel, who had no wish or intention to come here, in the Leased Territory is interfering with British Commercial interests in China, which I feel sure cannot be the desire of Your Excellency or of the other

Japanese

His Excellency,

The Governor of Kwantung Province,

P O R T A R T H U R .

F-0360

0168

亞細亞局

關機高外第一二八六號

昭和六年二月二十八日

關東廳警務局長

外務次官
奉天總領事館

英國飛行機ノ我要塞地帯内不時着陸
ニ關スル件

二月九日午後一時四十分頃國籍不明ノ機體標識ナキ赤塗複葉飛行機一機大連市街上空（關東州防禦營造物地帯）ヲ旋廻西方ニ向ケ飛翔、午後一時五十分頃大連周水子飛行場ニ不時着陸シタルヲ以テ大連警察署ニ於テハ寺尾警部ヲ現場ニ派シ飛行場ニ於テ旅順要塞司令部副官、關東廳航空官、大連

關東廳

憲兵分隊長等ト共ニ大連駐在英國領事ノ立會ノ下ニ要塞地帯侵犯ノ事實ニ就キ一應取調ノ上機體ノ検査ヲナシ差押ノ上周水子陸軍飛行場格納庫ニ格納シ操縦士ハーヴェー、機關士ダットマンヲ大連憲兵分隊ニ同行憲兵隊主トナリ各關係官憲ト協調シ別紙憲兵隊長通報寫ノ取調ヲ行ヒ事件ヲ二月十二日大連地方法院檢察局ニ送致ノ上爾來檢察局ニ於テ取調中ノ處別紙二月二十六日附池内關東廳地方法院檢察官長代理ノ犯罪報告書寫ノ通、操縦士ハーヴェーニ對シテハ關東州防禦營造物地帯令違反トシテ起訴略式命令ヲ以テ公判請求ヲ爲シタル處本人ハ其ノ判決ニ承服シ機關士ダットマンニ對シテハ不起訴處分ニ附シ候條御參考迄

關東廳

F-0360

0169

關東廳

往電第二〇號ニ關シ英國飛行機事件ノ判決謄本寫茲及送付候也

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

三浦長官代理

昭和六年二月二十八日

永以郵便ニテ二月四日付寄



F-0360

0170



地檢第三九號

昭和六年二月二十八日

關東廳地方法院檢察官長代理檢察官 池内眞清

關東長官 塚本清治 殿

外國人ノ犯罪事件結果報告ノ件

本月二十六日地檢第三六號ヲ以テ及報告候アサーハアーヴェーニ對スル關東州防禦營造物地帶令違反被告事件ハ昨二十七日當法院ニ於テ罰金貳百圓ニ處スル旨ノ略式命令有之候條該謄本相添及報告候也

關東廳

昭和六年(曙)第一五號

略式命令

國籍 英國

住所 奉天オリエンタルホテル

在香港英國人經營極東航空株式會社

飛行機操縦士

元英國空軍中尉

アサー、ハア、ヴェー

當二十六年

右ニ對スル關東州防禦營造物地帶令違反被告事件ニ付キ當法院ハ略式命令ヲ爲スコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ罰金二百圓ニ處ス

右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ四十日間勞役場ニ留置ス

關東廳

事實

被告人ハ西曆千九百二十五年七月英國空軍ニ二等中尉トシテ入隊シ一年間飛行機操縦ノ練習ヲ爲シ尙ホ三年間爆撃法ヲ修習シ其後四ヶ月程之カ教官見習トシテ勤務シ夫レヨリ八ヶ月間同教官ト爲リ居リタル後一等中尉ニ昇進シタルトコロ辭職後西曆千九百三十年六月一日在香港極東航空株式會社ニ操縦士トシテ雇ハレ今日ニ至リタルモノナルカ同會社ハ昭和五年(西曆千九百三十年)十月頃其所有ノアプロー飛行機ヲ支那側政府ニ對シ賣込ムヘク之カ宣傳ノ爲メ一度奉天ニ解體シテ輸送シ同地ニテ之ヲ組立テ同地附近ニ於テ盛ニ航空飛行ヲ爲シ其賣込ノ宣傳ヲ爲シ居リタレトモ奉天ニ於ケル支那側政府當局ニ於テ早急ニ購入スルコトノ見込立タサリシニ付キ更ニ之ヲ奉天ヨリ南京ニ飛行シ同所ニ於テ賣込ノ宣傳ヲ爲スコトノ計劃ヲ立テ之カ飛行操縦士トシテ當時上海ニ在リタル被告人ヲ奉天ニ赴カシムルコトナリ其結果被告人ハ昭和六年(西曆千九百三十一年)一月二十一日奉天ニ到リタルモノ

關東廳

ニシテ爾來同地ニ於テ之カ飛行ノ計劃ヲ立テ其航路ヲ奉天ヨリ溝帮子ニ直行シ同地ヨリ北寧線ヲ目標ノ下ニ天津ニ到リ更ニ天津ヨリ濟南ヲ經テ南京ニ到ルコトニ決定シ昭和六年(西曆千九百三十一年)二月九日之ヲ決行スヘク在奉天支那側陸軍飛行場ニ於テ右飛行機ニ機關士ウヰリアムブオーレストダツトマンヲ同乗セシメテ飛行シ同日午前十一時四十五分頃同地ヲ出發シアリタルカ其飛行ニ付テノ準備十分ナラザリシ爲メ右飛行場出發後直チニ滿鐵線(奉天ヨリ大連ニ至ル鐵道線路)蘇家屯上空ヲ經テ該線路上空ヲ南行シタルモノニシテ被告人ハ右線路上空ニ出テタルトキヨリ其目標トスル鐵道線路カ滿鐵線(南滿洲鐵道株式會社線路)ナルコトヲ知リタルニ拘ラス豫定ノ航路タル奉天ヨリ溝帮子ニ至ル線乃至北寧線(奉天ヨリ天津ニ至ル鐵道線路)ニ引返スコトナク其儘飛行ヲ繼續シ滿鐵線路ニ沿ヒテ南行シ遂ニ關東州内ニ這入り更ニ周水子驛滿鐵本線ト旅順線分岐點附近ニ至リタルモノナルカ同地小孤山會以南ニ位スル大連灣大連附近上空ニ掛ケテハ關東州防禦

關東廳

營造物地帯令ニ依リ陸軍大臣ノ指定シタル防禦營造物地帯ニシテ要塞司令官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其上空ヲ航行スルコトヲ得サルニ拘ラス該地帯内タル周水子陸軍飛行場ノ上空ヨリ大連市ノ上空ニ至リ更ニ引返シテ南關嶺附近ノ上空ニ至リ同所ヨリ再ヒ前示飛行場ノ上空ニ引返シテ同日午後一時五十分頃同飛行場ニ着陸シタルモノナリ

適 條

關東州防禦營造物地帯令第四條第十五條
刑法第十八條

昭和六年二月二十七日

關東廳地方法院

判 官 長 島 卯 十 郎

被告人ハ此命令送達ノ日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得
右 臆 本 也

同 日 於 同 廳

關 東 廳

書 記 坂 本 武 雄

關 東 廳

F-0360

0173

昭和六年五月五日 接獲

關機高外第一二七三號ノニ

昭和六年二月二十八日

秘

關東廳警務局長

拓務次官殿
在京長官殿

英國飛行機ノ我要塞地帯
内不時着陸ニ關スル件

(参照 昭和六、二、四 關機高外第九三三號ニ)

二月九日英國飛行機力我要塞地帯内不時着陸
シタル件ニ付テハ關東州防禦營造物地帯令及

航空法違反トシテ二月十二日大連地方法院檢察
局ニ送致シ檢察局ニ於テ取調中ナル事ハ既報ノ
通ニ有之候處其後大連地方法院檢察局ニ於テ
慎重取調ノ結果別紙二月二十六日付池内關東
廳地方法院檢察官長代理ノ犯罪報告書ノ通
操縦士「ハーヴェー」ニ對シテハ關東州防禦營造
物地帯令違反トシテ起訴略式命令ヲ以テ公判
請求シタル處本人ハ之ヲ承服シ機關士ヲツトマン
ニ對シテハ不起訴處分ニ附サレ候條及報告候也
以上

電信課長

（起草）
年三月二日

件
普國飛行機士連飛來

綴込名

宛
在
松
平
大
使

發
帶
平
出
院

暗
第
號

往書和文号圖

其後大陣地才格院模彙局三於千取調估集

同局二月廿六日飛行士 Hasey 久岡康州防衛

宮造物地帯今違反して起訴に果敢

電
信
案

外務省

電話 1901 號
日 6 年 8 月 2 日 時 7 時 26 分發

(原議用紙乙)ナ

梨浦米 校園上 Duden 證據不充分にて不承認

卷之四 加次 二十七日 法陵 署武裁判 依

飛經三對壽金二百兩三言慢
被告服罪

セリ尚、身内、当、初、三、拘、束、員、在、左、逢、英、國

領事代理 依託、又依律、抑當中、起三千日錢并

官廳立居 辭修上海路上海旅匯

未出在集集金石碑刻

電
信
案

外務省

昭和六年三月四日

關東廳外事課長 河相達夫

亞細亞局第一課長 守島伍郎殿

外國飛行機飛來ニ關スル件

首題ニ關スル別紙寫何等御參考迄ニ及送付候也

關東廳

有添付物

監第一二七九號

昭和六年二月二十日

關東廳遞信局長 櫻井學

關東長官 塚本清治殿

外國飛行機飛來ニ關スル件

本月九日竝十日電報ヲ以テ不取敢及報告置候首題ノ件當局航空官ヲシテ調査セシメタル狀況左記ノ通りニ候條及報告候

記

一飛行機ノ所屬、種類、能力等

所屬 香港、英國「フアー」、イースト、アビエシヨシ、コンパ

ニール

種類 「アプロ」式二人乗練習機（二重操縱裝置）「アームス

關東廳

F-0360

0176

ツロングー二三〇馬力一
其ノ他 本機ハ全体赤塗ニシテ國籍及登録記號ヲ附セス、堪航證
明書及登録證明書ヲ有セス

ニ搭乗者其ノ略歴

操縦者

豫備英國空軍中尉
遠東航空會社操縦者

アーサー、ヴィ、ハーヴェー

二十六歳

英空軍ニ於テ練習一年、重爆撃隊附三年、教官練習四ヶ月、教官八
ヶ月

昨年五月末現役ヲ退キ直ニ現在ノ會社ニ入社ス

A級操縦士技倆證明書及B級營業操縦士免狀ヲ有ス

同乗者

機關士
豫備英國空軍軍曹

ウィリアム、エフ、ダットマン

三十一歳

關東廳

一九二一年一—一九二九年ノ八年間香港英空軍ニ在リテ機關士トナリ
二九年十二月除隊後直ニ現在ノ會社ニ入社ス、免狀ヲ有セス

三、飛行機ノ性能、備品

別紙第一ノ如シ

四、携帶品、服裝

兩人小「トランク」各一ヲ有スルノミ、内容ハ日用品、被服等ニシ
テ疑ハシキモノヲ有セス

裏毛皮ノ「オーバー」、革製飛行帽、飛行眼鏡、飛行手袋ヲ著用シ
特別ナル防寒ノ裝備ナシ

地圖、奉天山海關間ハ梯尺不明（概シテ百萬分一）ノ支那製郵便線
路圖其ノ他ノ部分ハ英字支那一般圖ニ有スルノミ郵便線路圖ニハ

奉天—溝幫子間、溝幫子—山海關間ニ鉛筆ニテ直線ヲ描キ奉天ニ

溝幫子ニ²⁰⁵²ト記入シアルノミ

五、飛行ノ目的及豫定線路（以下第七項迄搭乗者兩
名ノ陳述ヲ綜合記述ス）

關東廳

F-0360

0177

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

南京ニ空輸シ支那側ニ賣込ミヲ企圖ス
當日ハ奉天ヨリ秦皇島ヲ經テ天津ニ至リ翌日天津ヨリ濟南ヲ經テ南
京ニ至ル豫定ナリ

六 飛行實施前ノ狀況

會社ハ本飛行機ヲ奉天ニ賣込ミノ爲昨年十月營口ヲ經テ奉天ニ送り
同地ニ於テ「ダットマン」之ヲ組立テ支配人「フオウラー」數回奉
天軍航空處飛行場ニ於テ飛行ヲ行ヒシカ奉天軍ヘノ賣込成功セサリ
シヲ以テ之ヲ南京ニ空輸セントシ「ハーヴエー」ハ一月十八日上海
發大連經由奉天ニ至レリ

「ハーヴエー」ハ奉天ニ於テ一回試驗飛行ヲ爲シ二月六日奉天ヲ發
シ天津ニ向ヒシモ溝幫子附近天候不良ナリシ爲奉天ニ引返シ更ニ二
月九日本飛行ヲ行ヘリ

本飛行ノ爲ニ天津亞細亞石油會社支店及秦皇島開樂鑛山ニ天候通報
ヲ依頼セシカ天津ヨリハ此朝「雲低、風靜、地上雪」トノ返電アリ

關 東 廳

秦皇島ヨリハ通報ナカリキ

「フオウラー」ハ操縦者ニ天候餘リ良好ナラサルカ故ニ鐵道ニ沿ヒ
慎重ニ飛行スヘキヲ命シ操縦者モ亦此言ニ從ヒ北寧鐵道ニ沿ヒ飛行
スヘク決心セリ

従前「フオウラー」ハ一月初旬大連英國領事館ニ大連方面不時著陸
場ノ件ニ關シ照會スル所アリシカ同領事ヨリ大連附近ハ要塞地帯ニ
シテ航空ヲ禁止セラレアル事及關東州附近ヲ飛行スル爲ニハ日本官
憲ノ許可ヲ要スル旨ノ回答ニ接セシカ今回ノ飛行ニ於テハ寒氣ノ爲
海上飛行不適當ナルヲ以テ航路ヲ天津方面ニ採ル事トセシ爲關東州
方面ニハ全然關係ヲ有セスト考ヘ大連英國領事館ニモ何等報知スル
所ナカリキ

七 飛行實施ノ情況

「ハーヴエー」ハ奉天滞在已ニ二旬ニ近カラムトシ而モ前一回ハ奉
天飛行場ヲ出發シナカラ途中引返シタルヲ以テ本日更ニ引返スカ如

關 東 廳

キ事アラハ支那側ニ對スル英國操縦者ノ信用全ク失墜スヘキヲ慮リ
「フオウラー」ノ言ヲ聞キテ最慎重ニ飛行ヲ遂行センコトヲ期セリ
九日朝來奉天附近ハ地上薄霧アリシモ快晴北々西ノ微風ナリシヲ以
テ午前十一時四十五分同地ヲ出發シ奉天西方鐵道交叉點附近ヨリ一
直線ニ溝幫子ニ向フ、時ニ高度約千五百呎ナリ出發後二三十分頃圖
雲ニ會ヒシカ漸次密雲トナリ雲高亦低ク時々雲ヲ被リ展望狹小トナ
リシヲ以テ高度ヲ約五百呎トナシ少シク北寄ニ針路ヲ探リ飛行セリ
（其ノ時ノ修正角度ヲ尋問セシモ唯若干北ニ向ハシメタルモ角度ハ
述ヘ難シト答フ）而シテ地圖ノ不完全ナルト支那部落ノ狀況カ各所
トモ同一ナルヲ以テ地上ニ何等ノ目標ヲ求ムルヲ得ス又風向風速ヲ
知ルヘキ何等ノ手段無キヲ以テ飛行方位角ノ修正モ亦正確ヲ期シ難
ク唯「感」ヲ以テ少シク北方ニ向ハシメテ飛行スルコト數十分再ヒ
鐵道線路ニ會シタルヲ以テ之ヲ打虎山、溝幫子間ナリト確信シ之ニ
沿ヒテ飛行セリ、此頃ヨリ寒氣益身ニ泌ミ頭ヲ遮風硝子ノ陰ニ入レ

關
東
廳

唯一意鐵道線路ヲ見失ハサラン事ニ專念スルト、時々諸計器ヲ點檢
スルトノ外敢テ周圍ノ地形等ニ注意ヲ拂フ餘裕ナカリキ、羅針盤角
度ハ概シテ²²⁵⁰ナリシト記憶スルモ之レトテ鐵道線路ノ曲折ニ從ツテ
飛行セシカ故ニ常ニ變化シ殆ト之レニ考慮ヲ拂フ事無カリキ、斯ク
ノ如クシテ飛行スル内略秦皇島ニ達スヘキ時間ニ一海港ヲ發見シタ
ルヲ以テ初メハ同地ニ達シ得タルモノナリト信シ該都市上ニ至リシ
カ其ノ街衢整然、電車線路縱横ニ走レルヲ見、支那ノ都市トシテ斯
ノ如キハ天津、上海等ノ外無キ筈ナルヲ思ヒ其ノ何地ナルヤヲ判斷
スルニ苦ミ初メテ疑念ヲ生シ同地ヨリ更ニ引返シ其ノ市外ニ廣闊ナ
ル飛行場ヲ發見セリ次テ其ノ北方鐵道線路ノ分岐點ニ至レハ從來迪
レル線路ハ複線ナルニ分岐線ハ單線ナルヲ見、益自己ノ現位置カ何
處ナルカヲ判斷シ得サルニ至リシヲ以テ寧ロ一應著陸シテ之ヲ確ム
ルヲ可ナリト思考シ前ニ發見セシ飛行場ニ至レハ同場内ニテハ著陸
ノ信號ヲ爲シアリシヲ以テ即テ直ニ同飛行場ニ著陸セリ

關
東
廳

著陸後機周ニ集マレルハ皆日本人ナルヲ見益自己カ不明ノ地ニ來レ
ルヲ知リシカ同所ノ一員ト會話シ初メテ大連ナルコトヲ知リ重大ナ
ル過失ニヨリ日本國法ヲ犯セルヲ自覺セリ

八當局ノ處置

大連飛行場職員ハ當日ノ下リ定期機カ午後〇時十五分到著セシニヨ
リ場内諸信號ヲ撤去シ室内ニ於テ執務中午後一時四十分頃突然爆音
ヲ聞キ之ヲ見シニ赤色ニシテ國籍及登録記號ヲ有セサル飛行機飛來
セルカ或ハ海軍機ニ非ラサルヤヲ疑ヒ遞信局航空係ニ電話問合セヲ
爲スト共ニ飛行場ニ吹流ヲ揭ケ丁型布板ヲ出シ著陸指示ノ準備ヲ爲
ス、其ノ間該飛行機ハ大連方面ニ飛ヒ去リシカ間モナク再ヒ大連方
面ヨリ飛行場上空ニ飛來シ其ノ儘北方ニ去リシカ直ナニ引返シテ午
后一時五十分著陸セリ
依テ飛行場勤務安永技手ハ直チニ日本航空輸送株式會社大連支所勤
務員ノ協力ヲ求メ該飛行機ヲ同會社格納庫前ニ運搬セシメ搭乗者兩

關 東 廳

名ヲ會社待合室ニ收容シテ其ノ旨遞信局ヘ報告セリ

一方遞信局ニ於テハ上空ニ赤色ノ所屬不明機ノ飛來セルヲ見タルニ
ヨリ航空官ハ直ニ大連憲兵分隊、大連警察署、旅順要塞大連派出所
ト打合連絡中、大連飛行場ヨリ該飛行機カ同場ニ著陸セシ事及同機
カ英國「フアー」、イースト、アビエシヨンコンパニー」所屬「アブ
ロー」式練習機ナル旨ノ電話報告ヲ受ケタルニ依リ直ニ大連飛行場ニ
急行シ大連憲兵分隊長ノ取調ニ立會ヒ機体及搭乗品ノ取調ヲ行ヒシ
カ別段容疑品ヲ發見セス飛行機ハ憲兵分隊長ノ要求ニ依リ之ヲ陸軍
格納庫ニ收容保管スルコトセリ
次テ同日及翌十日並十二日大連憲兵分隊ニ於ケル取調ニハ常ニ立會
タリ

九當局ニ於テ蒐集セル同日正午ヨリ午後二時ニ至ル營口其ノ他沿線各地
ノ天候狀況別紙第二ノ如シ

一〇所 見

關 東 廳

本件ノ原因ヲ考察スルニ天候、寒氣竝操縦者ノ粗漏怠慢ニ基ク過誤ナリト認メラルルモ大連附近ニ於テ尙其ノ地點ヲ判定シ得サリシヤニ付テハ幾分ノ疑點ノ存スルモアルヲ以テ航空法竝關東州防禦營造物地帶令違反ノ容疑者トシテ處置スヘキモノナリト認定ス

關
東
廳

附
錄

本事件調査中聞知シタル參考事項次ノ如シ

- 一、遼東航空會社 (Far East Aviation Co. Ltd.) ハ香港ニ本社ヲ上海ニ支店ヲ有シ社長「ビ、エル、レエウイス」支配人「アル、ヴィ、フオウラー」ニシテ飛行機及部品、附屬品寫眞機、落下傘等ノ販賣ヲ營業トス、新聞紙等ニ定期航空ヲ企圖シアル如ク報導セラレアルハ誤ナリト
- 二、「フオウラー」(フアラ)ハ大戦間空軍操縦者タリ其ノ後日本ニ操縦教官トシテ招聘セラレシコトアリ旭日章ヲ拜受シアリ
- 三、「フアラ、イースト、アビエシヨン、コーボレシヨン」トハ兩名共聞知セシコトナシト答辯セリ

關
東
廳

一、機体性能

飛行機性能及備品表

名 稱 「アプロ」(複葉、複座、二重操縦装置)
 構造概況 鋼管骨ノ布張
 油槽ノ位置、主油槽胴体内一、補助油槽上翼中一
 全備重量 一、六七〇斤
 機体重量 一、二三〇斤
 搭載量 四四〇斤
 乗員ニ、揮發油約三一〇立(五七五「ガロン」)
 潤滑油約 二五立(五五「ガロン」)
 飛行速度 (時速) 最大一九〇杆 常用一六〇杆
 發動機 星型七氣筒空冷「アームストロング」ニ三〇馬力一箇
 同轉數 最大二〇九〇 常用同轉一、九〇〇

關 東 廳

二、裝備品

座席内備付計器類

名 稱	數 量	摘 要	名 稱	數 量	摘 要
高度計	ニ	英國 スミスソンス工作所製	燃料計	一	シンムス H型米國 製ハツサ
速度計	ニ		羅針盤	一	
溫度計	ニ		傾斜計	ニ	
同轉計	ニ		アーピング落下傘	ニ	
壓力計	ニ				

備 考

- 1 機關士席ニハ操縦桿及羅針盤ナシ
但シ裝置ノ爲ノ設備アリ
- 2 燃量ノ殘量三〇「ガロン」

關 東 廳

二月九日各地天候（午后零時ヨリ一時三十分迄）

地名	天候
營口	晴北西ノ和風約二米 觀測所ノ記錄
大石橋	午前五時二耗ノ降雪（大連ノ降雪ノ程度） 午前十一時曇（上層雲）北ノ風軟風 午后五時晴（雲量三乃至四）靜穩
蓋平	半晴半曇時々陽光現出弱キ北風
熊岳城	無風狀態ノ晴天ニシテ赤色ノ飛機一南ニ向ケ飛行セリ
瓦房店	晴西北微風 時々曇西北微風

關東廳

地名	天候
普蘭店	曇リ少量ノ小雪風認メス
大連	曇雲量一〇雲ノ高八百米遠視五杆 北ノ軟風積雪四寸

關東廳

次官

秘書長

秘

歐米局長

英國飛行機關東州要塞地帯飛行ノ件

昭和六年三月五日英國大使館參事官「スノウ」氏永井次官ヲ來訪ノ際次官ヨリ本件ニ關スル同大使館「エドワード・メアール」ニ對シテハ近々同答ノ答ナル旨述ヘタル上在大連英國領事代理「デニング」ヨリ關東廳當局ニ宛テタル書翰等開讀ヲ内示シ其ノ内容ノ不穩當ニ付注意ヲ喚起シタルニ同參事官ハ「デニング」ハ「エリオット」大使館後其ノ秘書タリシコトモアリ日本ノ事情ニモ通シ居リ平常ハ機密ノ人物ナルカ今回ノ書翰ニ付テハ大使館ニモ同人ヨリ報告接收到シ居リ自分トシテモ該書翰ノ内容ハ本廳當リ思考シ居ル次第ナリ右ハ自分トシテ甚ダ遺憾ニ存ナル所ナリ「アボロジャイズ」ト述ヘ尙今回ノ事件ノ取調ニ要セル時日長キニ過キ又罰金ノ額モ高キニ失スル

外務省

5.8

(添付紙)ト

ヤニ感スル旨附言セルニ付次官ヨリ檢察官「藤井」事件ノ取調ニ努ムルモ短時日ニ至リ本件ハ「藤井」モ「ヤニ」モ「タルコト」及當該罰則ノ規定ニ照スニ言渡モ過當ト認メラレサル旨ヲ可然説明シ置キタルカ「藤井」事件終了ト信スル

(六、三、五神吉記)

外務省

5.8

<http://www.jacar.go.jp>

上空ヲ飛行シタル上午十一時五十分頃
 周水子（是亦周東州防禦管造物地帯）
 陸軍飛行場ニ着陸セリ依リテ大連
 憲兵分隊長其他國籍警官憲兵直ニ
 現場ニ急行シタル右航空機ハ「フー
 イー スタン、エグゼクティブ」所屬英
 國機ニシテ英人飛行士「ハーグ」及英人
 機関士「ダッドマン」塔乗セルコト判明シタリ
 二、憲兵隊長ハ直ニ塔乗者ノ取調ヲ開始
 シ其ノ結果事件ヲ大連地方法院檢査部
 外務省

乙 號 ①

局ニ送致シタルカ自稱ハ不拘束ノ儘在大
 連英國領事官ニ委託シ又機体ハ之ヲ
 柳留シタリ
 三、地方法院檢査部ニ於テハ今正迅速且慎
 重ヲ旨トシテ取調ヲ行ヒタル結果二月二十六
 日夜飛行士「ハーグ」ニ関シテハ周東
 州防禦管造物地帯令違反ノ虞ニ依
 リ地方法院ニ起訴シ尙有事實理付異式
 裁判ヲ請ホシタルカ自稱ハ引續キ不拘束
 ノ儘トシ又機関士「ダッドマン」ニ関シテハ
 外務省

乙 號 ①

地方佐院ニ於テハ二月二十ハ日飛地行エハ一カ
 工ニ對シ異式裁判ニ依リニ百圓ノ回利金
 ナ言渡セル勢被生ハカニ限限シヨリ又機
 体ハ同ノ官憲立今ノ上解体シ海路上
 海ニ輸送セウシタリ

乙號①

外務省

公
信
案

文書課長 栗原

別紙

(甲號用紙)

文書課發送
昭和六年參月九日
發送濟

淨書

正校(原稿)

(淨書)

(淨書)

管主
金和
任主

任主

（起草）
正六年三月九日

禪

機密
第 半 官 信

號

大正
昭和六年參月九日附

附屬書

通

要信、
河相角軍神外郎澤長
守島亞一澤長

名 信
守島正一隊長

件名 英國飛行模範 岡東州

名 込 綴

拜啓陳者先般英國飛行機園東州聖事

著名造幣地帶內飛行事件圖

國策代理發國年長古及古記書稿及

公
信
案

外務省

F-0360

0107

三浦清太郎氏より送る、三月五日、東京、外務省、
 電報、三月五日、東京、外務省、
 事即英王臨幸、理、使、令、漢、之、言、
 及、別、依、令、漢、漢、官、通、り、應、研、治、才、
 多、試、付、右、部、了、知、和、氏、度、心、
 別、修、三、月、五、日、英、王、臨、幸、以、漢、大、
 使、之、令、漢、漢、官、通、り、應、研、治、才、
 要、應、地、方、外、務、省、
 三月五日、東京、外務省、
 外務省

秘

英國飛行機關東州要塞地帯飛行ノ件
 昭和六年三月五日英國代理大使參事官「スノウ」氏永井次官ヲ來訪
 ノ際次官ヨリ本件ニ關スル在大連英國領事代理「デニング」ヨリ關
 東廳當局ニ宛テタル書翰等ヲ内示シ其ノ内容ノ不穩當ニ付注意ヲ喚
 起シタルニ同參事官ハ「デニング」ハ「エリオット」大使時代其ノ
 秘書タリシコトモアリ日本ノ事情ニモ通シ居リ平常ハ日本人ニ受ケ
 好キ人物ナルカ今回ノ書翰ニ付テハ大使館ニモ同人ヨリ報告接到シ
 居リ自分トシテモ該書翰ノ内容ハ措辭行キ過キタリト思考シ居ル次
 第ナリト「アボロジヤイズ」ノ口吻ヲ以テ述ヘ尙、事件、取調
 ニ要ナル時日長キ、又罰金ノ額モ高キニ失スル、感スル、附
 言セラル、付次官ヨリ檢察官數ト事件數トノ關係ト事件ノ取調ヲ察ス

外務省

F-0360

0188

秘

英國飛行機關東州要塞地帯飛行ノ件

昭和六年三月五日英國代理大使參事官「スノウ」氏永井次官ヲ來訪
ノ際次官ヨリ本件ニ關スル在大連英國領事代理「デニング」ヨリ關
東廳當局ニ宛テタル書翰等ヲ内示シ其ノ内容ノ不穩當ニ付注意ヲ喚
起シタルニ同參事官ハ「デニング」ハ「エリオット」大使時代其ノ
秘書タリシコトモアリ日本ノ事情ニモ通シ居リ平常ハ日本人ニ受ケ
好キ人物ナルカ今回ノ書翰ニ付テハ大使館ニモ同人ヨリ報告接到シ
居リ自分トシテモ該書翰ノ内容ハ措辭行キ過キタリト思考シ居ル次
第ナリト「アボロジヤイズ」ノ口吻ヲ以テ述ヘ尙今回ノ事件ノ取調
ニ要セル時日長キニ過キ又罰金ノ額モ高キニ失スルヤニ感スル旨附
言セルニ付次官ヨリ檢察官數ト事件數トノ關係上事件ノ取調ニ努ム

外務省

5.8

(添付紙)ト

外務省

5.8

ルヲ知時由ニ選ビ難ク本件ノ如キハ迅速ナルモノタルコト及當該罰
則ノ規定ニ照スニ言渡モ適當ト認メラレサル旨ヲ可然説明シ備キ
ルヲ代理大使「事件終了ト認ムト述ベ」
(本主・五神吉記)

(添付紙)ト

F-0360

0189

秘

英國飛行機關東州要塞地帯飛行ノ件

昭和六年三月五日英國代理大使參事官「スノウ」氏永井次官ヲ來訪
ノ際次官ヨリ本件ニ關スル在大連英國領事代理「デニング」ヨリ關
東廳當局ニ宛テタル書翰等ヲ内示シ其ノ内容ノ不穩當ニ付注意ヲ喚
起シタルニ同參事官ハ「デニング」ハ「エリオット」大使時代其ノ
秘書タリシコトモアリ日本ノ事情ニモ通シ居リ平常ハ日本人ニ受ケ
好キ人物ナルカ今回ノ書翰ニ付テハ大使館ニモ同人ヨリ報告接到シ
居リ自分トシテモ該書翰ノ内容ハ措辭行キ過キタリト思考シ居ル次
第ナリト「アボロジャイズ」ノ口吻ヲ以テ述ヘ尙今回ノ事件ノ取調
ニ要セル時日長キニ過キ又罰金ノ額モ高キニ失スルヤニ感スル旨附
言セルニ付次官ヨリ檢察官數ト事件數トノ關係上事件ノ取調ニ努ム

外務省

5.8

(赤枠紙)ト

ルモ短時日ニ運ヒ難ク本件ノ如キハ迅速ナルモノタルコト及當該罰
則ノ規定ニ照スニ言渡モ過當ト認メラレサル旨ヲ可然説明シ置キタ
ルカ代理大使ハ事件終了ト認ムト述ヘタリ

(六、三、五神吉記)

(赤枠紙)ト

外務省

5.8

F-0360

0190

外務省

ルモ短時日ニ運ヒ難ク本件ノ如キハ迅速ナルモノタルコト及當該罰
則ノ規定ニ照スニ言渡モ過當ト認メラレサル旨ヲ可然説明シ置キタ
ルカ代理大使ハ事件終了ト認ムト述ヘタリ

(六、三、五神吉記)

(赤穂紙)

5.8

F-0360

0191

2
寫字

British Consulate,
Dairen.
16th February, 1931.

Sir,

With reference to our conversation of the 13th instant, I have the honour to point out that this is the eighth day since Mr. A.V. Harvey and Mr. W.F. Dudman made their accidental landing in the Leased Territory with an Avro biplane, and that no decision has yet been reached, while the Procurator's examination is now continuing for the third day.

2. While I readily recognize the legal right of the Japanese authorities to take such action as their laws and regulations demand, I venture to think that a week should have furnished ample time to provide all the evidence required and to establish beyond doubt what has been a conviction in my mind for some time, that the airmen are innocent of anything but a technical and unintentional breach of the law. For this apologies have already been tendered, and I feel that the time has now arrived when I should be doing an injustice to two unfortunate British subjects, whose misfortunes to my mind are deserving rather of pity than of punishment, if I do not, on grounds of international courtesy and of the friendly relations between our two countries, most earnestly request that the Procurator's investigations be brought to a speedy conclusion and that the airmen be allowed to depart with their

The Acting Chief of the Foreign Affairs Section,
Kwantung Government,
PORT ARTHUR.

- 2 -

their machine as soon as possible without any further action being taken against them.

3. With regard to the Procurator's investigations Mr. Harvey, the pilot, complains that the former does not himself appear to possess any knowledge of the technical details of aeroplanes and of flying and that his (Mr. Harvey's) evidence thereby appears to lose much of the weight which it would carry with a person in possession of the necessary qualifications. Mr. Harvey, moreover, doubts whether a single person amongst those who have examined him since the outset, has actually flown in an open aeroplane in mid-winter in Manchuria for any length of time and is therefore capable of fully appreciating the conditions under which he made his unfortunate flight. I have to thank you, however, for ensuring the presence of a more competent interpreter.

I have the honour to be,

Sir,

Your obedient Servant,

(signed) A. E. Dening

Acting British Consul

British Consulate,
Dairen.
16th February, 1931.

Sir,

With reference to our conversation of the 13th instant, I have the honour to point out that this is the eighth day since Mr. A.V. Harvey and Mr. W.F. Dudman made their accidental landing in the Leased Territory with an Avro biplane, and that no decision has yet been reached, while the Procurator's examination is now continuing for the third day.

2. While I readily recognize the legal right of the Japanese authorities to take such action as their laws and regulations demand, I venture to think that a week should have furnished ample time to provide all the evidence required and to establish beyond doubt what has been a conviction in my mind for some time, that the airmen are innocent of anything but a technical and unintentional breach of the law. For this apologies have already been tendered, and I feel that the time has now arrived when I should be doing an injustice to two unfortunate British subjects, whose misfortunes to my mind are deserving rather of pity than of punishment, if I do not, on grounds of international courtesy and of the friendly relations between our two countries, most earnestly request that the Procurator's investigations be brought to a speedy conclusion and that the airmen be allowed to depart with their

The Acting Chief of the Foreign Affairs Section,
Kwantung Government,
PORT ARTHUR.

- 2 -

their machine as soon as possible without any further action being taken against them.

3. With regard to the Procurator's investigations Mr. Harvey, the pilot, complains that the former does not himself appear to possess any knowledge of the technical details of aeroplanes and of flying and that his (Mr. Harvey's) evidence thereby appears to lose much of the weight which it would carry with a person in possession of the necessary qualifications. Mr. Harvey, moreover, doubts whether a single person amongst those who have examined him since the outset, has actually flown in an open aeroplane in mid-winter in Manchuria for any length of time and is therefore capable of fully appreciating the conditions under which he made his unfortunate flight. I have to thank you, however, for ensuring the presence of a more competent interpreter.

I have the honour to be,

Sir,

Your obedient Servant,

(signed) A. E. Dening

Acting British Consul

第 1 号

British Consulate,
Dairen.
12th February, 1931.

Sir,

I have the honour to request that a British Avro bi-plane, piloted by Mr. A. V. Harvey, a British subject, with Mr. W. F. Dudman as engineer, which entered the Kwantung Leased Territory unknowingly, and ignorant of its whereabouts, landed on the Choushuitzu Military Aerodrome on the afternoon of February 9th, 1931, may be released together with its personnel, and in view of its accidental entry and the formal apologies which have been tendered therefor be allowed to leave the Leased Territory.

2. I have already expressed through the Chief of Your Excellency's Foreign Affairs Section my regret at the occurrence of this incident, and the fact that it has led to the infringement of the Japanese Aviation Law and the Ordinance with regard to Strategic Zones. But I venture to think that an aeroplane which by accident and through weather conditions has entered your territory, thereby unconsciously infringing the laws thereof, is deserving of special consideration. Your Excellency will also readily appreciate that the continued detention of this aeroplane and its personnel, who had no wish or intention to come here, in the Leased Territory is interfering with British Commercial interests in China, which I feel sure cannot be the desire of Your Excellency or of the other

Japanese

His Excellency,

The Governor of Kwantung Province,

P O R T A R T H U R .

- 2 -

Japanese Authorities concerned.

I have the honour to be,

Sir,

Your Excellency's most obedient Servant,

(signed) A. E. Dening.

Acting British Consul.

F-0360

0194

British Consulate,

Dairen.

12th February, 1931.

Sir,

I have the honour to request that a British Avro bi-plane, piloted by Mr. A. V. Harvey, a British subject, with Mr. W. F. Dudman as engineer, which entered the Kwantung Leased Territory unknowingly, and ignorant of its whereabouts, landed on the Choushuitzu Military Aerodrome on the afternoon of February 9th, 1931, may be released together with its personnel, and in view of its accidental entry and the formal apologies which have been tendered therefor be allowed to leave the Leased Territory.

2. I have already expressed through the Chief of Your Excellency's Foreign Affairs Section my regret at the occurrence of this incident, and the fact that it has led to the infringement of the Japanese Aviation Law and the Ordinance with regard to Strategic Zones. But I venture to think that an aeroplane which by accident and through weather conditions has entered your territory, thereby unconsciously infringing the laws thereof, is deserving of special consideration. Your Excellency will also readily appreciate that the continued detention of this aeroplane and its personnel, who had no wish or intention to come here, in the Leased Territory is interfering with British Commercial interests in China, which I feel sure cannot be the desire of Your Excellency or of the other

Japanese

His Excellency,

The Governor of Kwantung Province,

P O R T A R T H U R .

- 2 -

Japanese Authorities concerned.

I have the honour to be,

Sir,

Your Excellency's most obedient Servant,

(signed) A. E. Dening.

Acting British Consul.

關機高外第一四七七號ノ二

第一課

昭和六年三月十二日

關東廳警務局長

昭和六年四月八日接覽



拓務次官
外務次官
奉天總領事官
在京關東長官
在關東長官

英國飛行機ノ我要塞地帯内不時着陸ニ關スル件

本件ニ關シテ對號既報ノ通ニ有之候處其ノ後審理ノ結果二月二十八日
附大連地方法院ニ於テ略式命令ニ依リ操從士ア一サ一ペア一ハ一ペ一
ノミ關東州防禦營造物地帯令違反トシテ罰金二百圓ニ處セラレ飛行機

ハ所有者ニ返附セラレタルヲ以テ操從士ハ一ペ一ハ罰金ヲ完納シタル
上飛行機ハ三月二日大連周水子飛行場ニ於テ解体シ同三日大連東公園
町和記洋行ノ手ニ依リ飛行ヨリ和記洋行ニ運搬保管中ノ處本月十日午
後〇時三十分大連出帆「タイワン」號ニ搭載香港ニ向ケ出發セリ
右御參考迄

参照
昭、六、二、二八、關機高外第一、二七三ノ二
昭、六、二、二八、關機高外第一、二八六

關東局
東京第一四四九號

昭和六年三月十八日

關東長官 塚本清治

外務大臣 男爵 幣原喜重郎 殿

英國飛行機事件ニ關シ在大連英國領事代理ヨリ別紙寫ノ通り本件ニ對シ遺憾ノ意ヲ表シ
且ツ將來斯クノ如キ事件ヲ再發セシメサル様十分注意致ス可キ旨陳謝狀ヲ提出致候條此
段報告候也

關東廳

昭和六年三月十九日
別紙添付
接受

F-0360

0197

British Consulate,

Dairen,

12th March, 1931

Sir,

With reference to the landing in the Fortified Zone of the Kwantung Leased Territory on February 9th last of a British aeroplane piloted by Mr. A.V. Harvey, with Mr. W.F. Dudman as Engineer, this matter was referred by me to His Britannic Majesty's Embassy in Tokyo on the delivery of a Summary Sentence by a Judge of the Kwantung Government District Court on February 27th last.

2. The local negotiations between the authorities of your Government and this Consulate may therefore be said to be closed, and on their termination I avail myself of the opportunity to renew to Your Excellency with emphasis the regrets expressed in my letter of February 10th last to the Chief of Your Excellency's Foreign Affairs Section, that a British aeroplane, by landing in the Leased Territory, should thereby have infringed Japanese law and caused so much trouble to the authorities of the local Government.

3. As Your Excellency is aware, I had already prior to this unfortunate incident exerted every effort to prevent such an occurrence, which took place in circumstances entirely beyond my control.

I/

His Excellency,

S. Tsukamoto,

etc., etc., etc.,

Governor of Kwantung Province,

PORT ARTHUR.

I nevertheless assure Your Excellency that in future also I shall, to the best of my ability, take every possible step to avert the recurrence of so regrettable an infringement of Japanese law.

I have the honour to be,

Sir,

Your Excellency's most obedient
humble Servant,

Signed (M.E. Denning)

Acting British Consul

夏朝王長
隨

夏朝王長
隨

乙
號
①

英國飛行機 關東州要害地帯飛行ノ付
昭和六年三月三十一日現在本邦英國臨時代理官
アリス氏永井次郎ノ素方奉付ノ月シ 貴機申請
三月廿日居候ヲ格ニ 一在大連英事館ノ代理官
ヨリ關東廳當局ニ宛テ之ニ書翰ニ自今モ不備事
課ノ本人ノ注意ヲ喚起シ直キヲ知今般本人ヨ
リ在付差遣ノ事ヲ表シ今後地方官憲ト各
滿接觸ニ努力ス旨ヲ申越シタル趣述ヘタリ
昭和六年三月三十一日 神吉比

文書課長

公信案

別紙

(甲號用紙)



文書課發送 昭和六年三月廿七日發送済 淨書 正(原稿) (淨書)	主 管 亞細亞局長 第 知 主 任 亞細亞局長 課 (起草 大正 六年 三月 五日) 附屬書	機密 第 半 分 信 號 大 正 年 六 月 廿 六 日 附 附 屬 書 通	受 信 岡 東 縣 (旅 順) 人 名 河 相 外 事 課 長 發 信 宇 島 亞 一 郎 長	件 名 英 國 飛 行 機 岡 東 州 飛 來 岡 係 名 込 綴	拝啓 陳者 英國飛行機 岡東州要塞 地帶 飛行事件 岡東州 在大津英領事館 在 大津英領事館 在 大津英領事館 庶務課 庶務課 庶務課 次官 次官 次官 公 信 案 外 務 省
---	---	--	--	---	--

乙 號 ①

外 務 省

三月廿四日附出信ヲ改テ通報轉送ス
 未訪會漢ノ際 事件ニ関シノ事
 本使ヨリ別紙ニテ言明スルトニ
 アリタリ 趣ナルニ付 右仰テ 相成度
 具 申
 (別紙ハ三月廿四日永井次官英國臨時代理大
 使「スノウ」會談録「英國飛行機南東州要
 塞地帯飛行ノ件」寫一部作成ノ上添附
 ノコト)

乙 號 ①

外 務 省

英國飛行機南東州要塞地帯
 飛行ノ件
 昭和六年三月二十四日在本邦英國臨時代
 理大使「スノウ」氏永井次官ヲ來訪事件
 ニ関シ先般御話シ(三月五日會談ヲ指ス)
 ノ在大連英國領事代理「デニング」ヨリ
 南東州應當ニモテタル書翰用語ハ自分
 ヨリモ事人ノ注意ヲ喚起シ置キタル今般事人ヨ
 リ右ハ不穩當ナリシニ付之ヲ撤回シ今後地方官憲
 ト圓滿接觸カキテ中越シタル叙述ヘタリ

F-0360

0200